

もくじ

もくじ	1
はじめに	5
DynaBook でやりたいことを探そう！	10

1 章 本体の機能

15

1 各部の名前	16
① 前面図	16
② 背面図	18
③ 裏面図	19
2 システムインジケータ	21
3 キーボード	22
① キーボード図	22
② キーシフトインジケータの切り替え	24
③ キーを使った便利な機能	25
4 タッチパッド	29
① タッチパッドを設定するには	29
② タッピング機能	29
③ その他の設定	32
④ タッチパッドを無効／有効にするには	33
5 ディスプレイ	35
① ディスプレイの設定	35
6 ハードディスクドライブ	41
① ハードディスクドライブに関する表示	41
7 サウンド機能	42
① スピーカの音量を調整する	42
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	43
8 フロッピーディスクドライブ	44
① フロッピーディスク	44
② フロッピーディスクのセットと取り出し	45
③ フロッピーディスクを使う前に	46
9 ドライブ	50
① CD／DVD について	50

10 SD メモリカード	55
① SD メモリカードについて	55
② SD メモリカードのセットと取り出し	56
③ SD メモリカードを使う前に	57
11 ワンタッチボタン	59
12 セキュリティロック	62

2 章 音楽と映像

63

1 音楽 CD を聴く	64
① Windows を起動して音楽 CD を聴く	64
② Windows を起動しないで音楽 CD を聴く	66
2 音楽ファイルを聴く	67
① 音楽再生用アプリケーションを起動する	67
② Windows Media Player でファイルを再生する	67
3 オリジナル音楽 CD を作る	71
① Drag'n Drop CD を使うために	71
② Drag'n Drop CD を使う	73
4 DVD-Video を観る	76
① InterVideo WinDVD を起動する	76
② InterVideo WinDVD を使う	78
5 デジタルカメラの写真を編集／整理する	82
① デジカメ Walker を使う	82
6 映像を編集する	85
① 映像編集の流れ	85
② アプリケーションをインストールする	85
③ 映像を編集する	86
④ DVD-RW、DVD-R に編集した映像を書き込む	88

3 章 通信機器

93

1 LAN へ接続する	94
2 Bluetooth 機能を使う	97
① Bluetooth とは	97
② Bluetooth 機能を使って通信する	99

③ Bluetooth 通信を切断する	105
④ Bluetooth 東芝ユーティリティを終了する	106
3 新着メールを LED で確認する	107
① 新着メールチェックの設定をする	107
② 新着メールを確認する	112
③ 新着メールチェックを停止する	112
4 内蔵モデムについて	114
① 海外でインターネットに接続する	114

4 章 周辺機器の接続

117

1 周辺機器について	118
① 周辺機器を使う前に	119
2 PC カードを接続する	120
① PC カードを使う前に	120
② PC カードを使う	121
3 USB 対応機器を接続する	123
4 プリンタを接続する	124
① プリンタの接続と設定	124
5 テレビを接続する	126
6 CRT ディスプレイを接続する	130
7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	132
8 その他の機器を接続する	134
① RS-232C 対応機器	134
② PS/2 対応機器	134
③ マイクロホン	135
④ ヘッドホン	136
9 メモリを増設する	138

5 章 バッテリー駆動

143

1 バッテリーについて	144
① バッテリー充電量を確認する	145
② バッテリーを充電する	147
③ バッテリーパックを交換する	149

2 省電力の設定をする	151
① 省電力ユーティリティ	151
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	156
① スタンバイ	156
② 休止状態	157
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	159

6章 アプリケーションについて 161

1 アプリケーションを使う前に	162
2 アプリケーションを追加（インストール）する	164
3 アプリケーションを削除（アンインストール）する	165

7章 システム環境の変更 167

1 システム環境の変更とは	168
2 東芝 HW セットアップを使う	169
① 東芝 HW セットアップの起動と使用	169
3 BIOS セットアップを使う	175
① BIOS セットアップの操作	175
② BIOS セットアップの画面	177
③ 設定項目	178

付録 193

1 本製品の仕様	194
2 各インタフェースの仕様	203
3 技術基準適合について	210
4 Bluetooth について	228
さくいん	234

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊１）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊２）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊３）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っておくと便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っておくと役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 《 》 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

- ＊１ 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- ＊２ 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- ＊３ 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタANDARD 2002 を示します。

サイバーサポート

CyberSupport for TOSHIBA を示します。

DVD-R/-RW ドライブモデル

DVD-R/-RW ドライブが内蔵されているモデルを示します。

 **参照** DVD-R/-RW ドライブの詳細について「1 章 9 ドライブ」

マルチドライブモデル

CD-R/-RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ったマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

ドライブ DVD-R/-RW ドライブ／マルチドライブを示します。内蔵されているドライブは、モデルにより異なります。

記載について

- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Bookshelf Basic は、次の書籍を基に制作されました。『新英和辞典』第6版 (c) 研究社 1967, 1994, 1998, 『新和英辞典』第4版 (c) 研究社 1993, 1995, 1998, 『新明解国語辞典』第5版 (c) 三省堂 1972, 1974, 1981, 1989, 1997
- ・ Intel、インテル、Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネットは (株) 東芝の商標または登録商標です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag'n Drop CD はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ 駅すばあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、Live Update は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
(c) 2002 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ 携快電話は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。
- ・ 時事通信社「家庭の医学」デジタル第Ⅱ版は、時事通信社の商標です。
- ・ MotionDV STUDIO は、松下電器産業株式会社の登録商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・ 東京電話インターネットは東京通信ネットワーク株式会社の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・ 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・ 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・ 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・ パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

DynaBookでやりたいことを探そう！



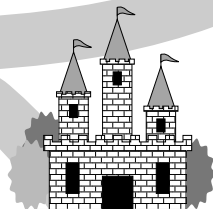
探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX
 ↳ アプリケーション名 ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



通信を楽しむ

- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」 ⇒ 『まずはこれから』
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ 英語のホームページを日本語に翻訳したい
「インターネット翻訳 英日」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ 日本語のホームページを英語に翻訳したい
「インターネット翻訳 日英」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.114
- ・ Bluetooth機能を使いたい
「Bluetooth 東芝ユーティリティ」 ⇒ P.97



メールを使う

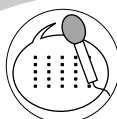
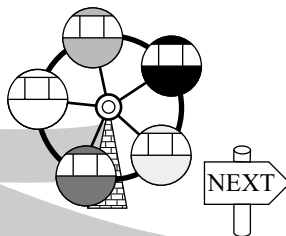
- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Outlook」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ メールをしたい
「Microsoft Outlook」「Outlook Express」 ⇒ 『基本をマスター 3章』
- ・ 自動メールチェックしたい
「メール着信ユーティリティ」 ⇒ P.107





音楽を楽しむ

- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.64
- ・オリジナル音楽CDをつくりたい
「Drag'n Drop CD」⇒P.71



音声

- ・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》



画像／映像を楽しむ

- ・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」⇒P.82
- ・映像を取り込んで編集し、DVDを作りたい
「MotionDV STUDIO」 「DVDfunSTUDIO ※1」⇒P.85
- ・DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」⇒P.76

※1 DVD-R/-RW ドライブモデルのみ



文書／表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Word」⇒《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい
「Microsoft Excel」⇒《サイバーサポート》



便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい
「Acrobat Reader」⇒《サイバーサポート》
- ・地図で場所を調べたい
「フロアトラスW for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「駅すばあと」⇒《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》
- ・国語/英和/和英辞典を使いたい
「Microsoft Bookshelf Basic」⇒《サイバーサポート》
- ・医学辞典を使いたい
「時事通信社「家庭の医学」デジタル第Ⅱ版」⇒《サイバーサポート》
- ・携帯電話を快適に使いたい
「携快電話6in」 「Outlook plus！」⇒《サイバーサポート》





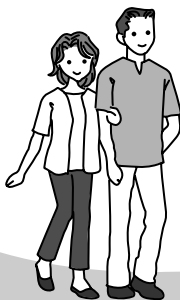
パソコンを守る

- ・ ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒『困ったときは 2章』
- ・ CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・ パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい
「東芝PC 診断ツール」⇒『困ったときは1章』
- ・ ハードウェアの設定を変えたい
「東芝 HW セットアップ」⇒P.169
- ・ ワンタッチボタンの設定を変えたい
「東芝コントロール」⇒P.59
- ・ キー操作でアプリケーションを起動したい
「Fn-esse」⇒《サイバーサポート》
- ・ バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.151



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

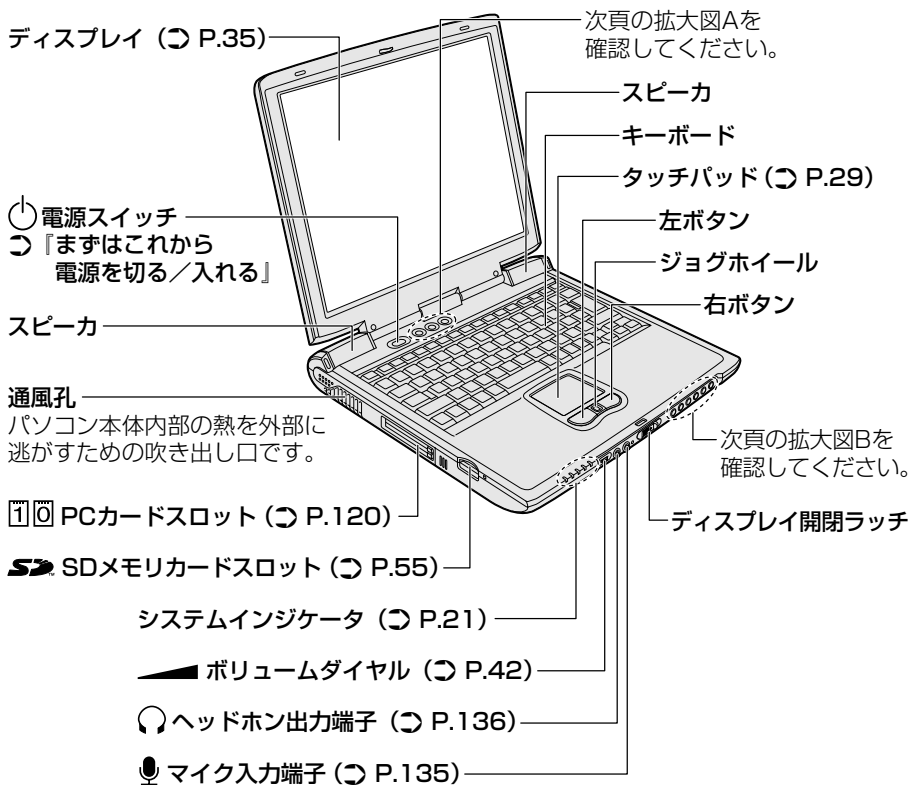
1	各部の名称	16
2	システムインジケータ	21
3	キーボード	22
4	タッチパッド	29
5	ディスプレイ	35
6	ハードディスクドライブ	41
7	サウンド機能	42
8	フロッピーディスクドライブ	44
9	ドライブ	50
10	SDメモ리카ード	55
11	ワンタッチボタン	59
12	セキュリティロック	62

1 各部の名前

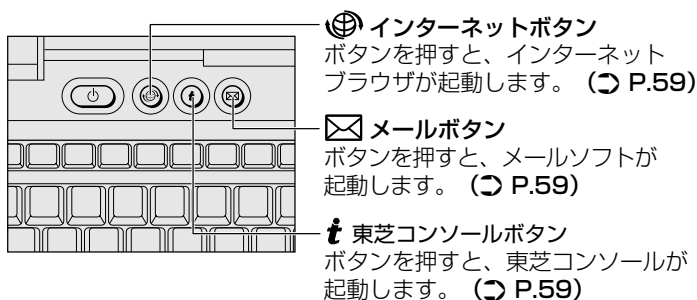
ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

1 前面図

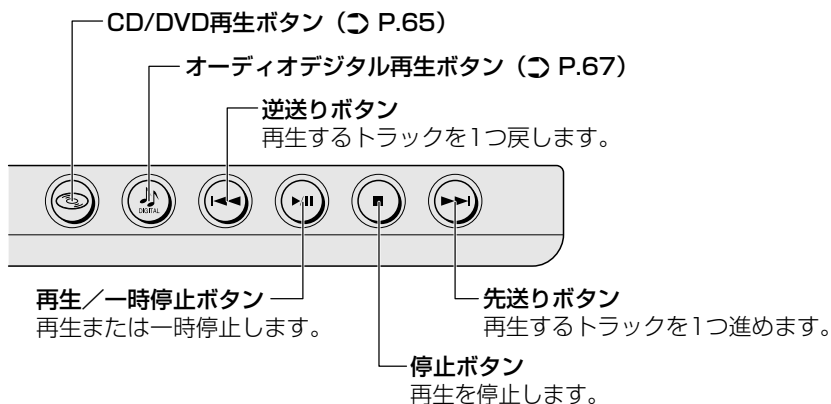


【拡大図 A】

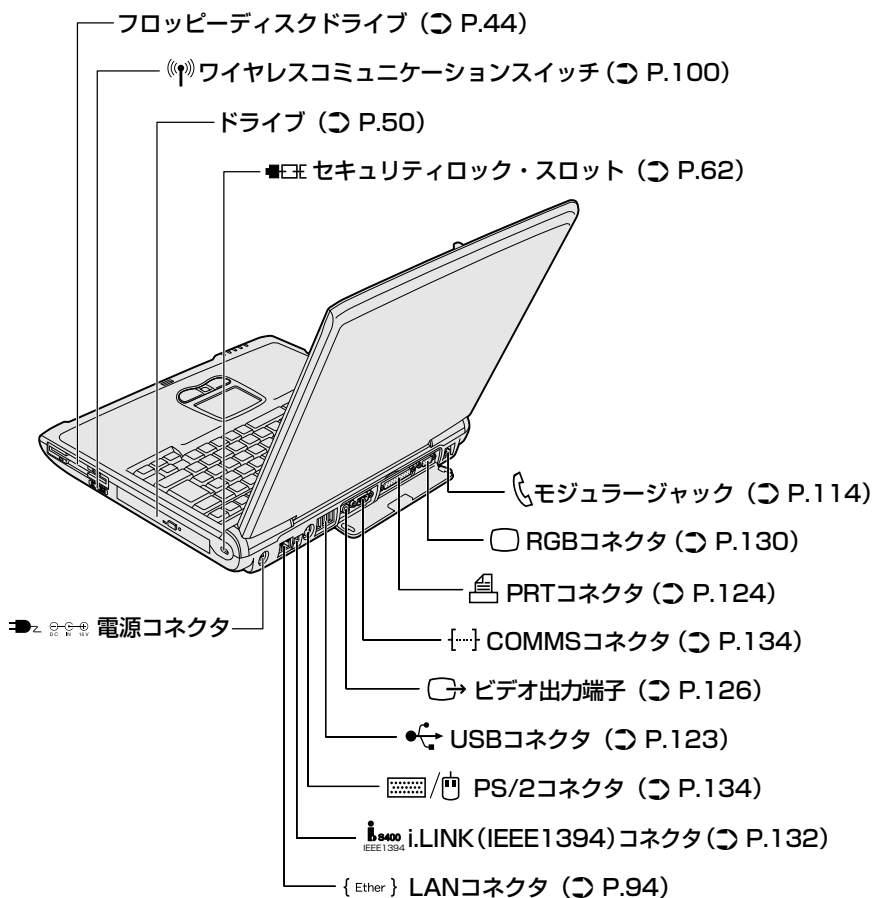


【拡大図 B】

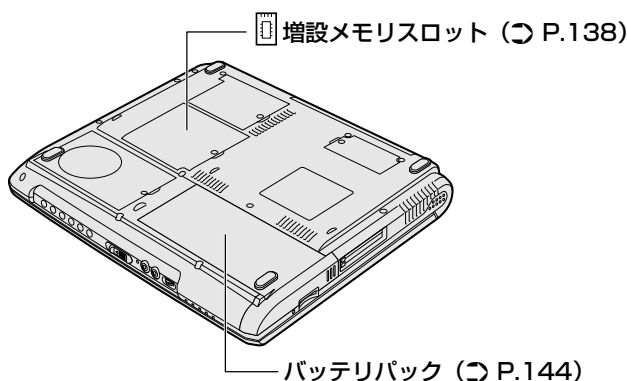
次の6つのボタンを、オーディオプレイボタンと呼びます。



2 背面図



3 裏面図



⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ～ 35℃、湿度 20 ～ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所

-
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
 - 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取ってください。
-

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格に準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、別途電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は次のとおりです。

アメリカ合衆国	： 125V
カナダ	： 125V
日本	： 100V

日本では必ず AC100V のコンセントで使用してください。

※取得規格は、アメリカ合衆国：UL 規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

【ACアダプタの仕様】

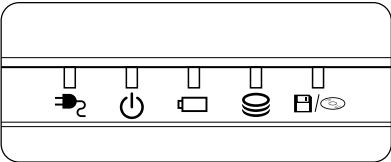
本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力	： AC100～240V、128～168VA、50/60Hz
出力	： 15V、4A

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



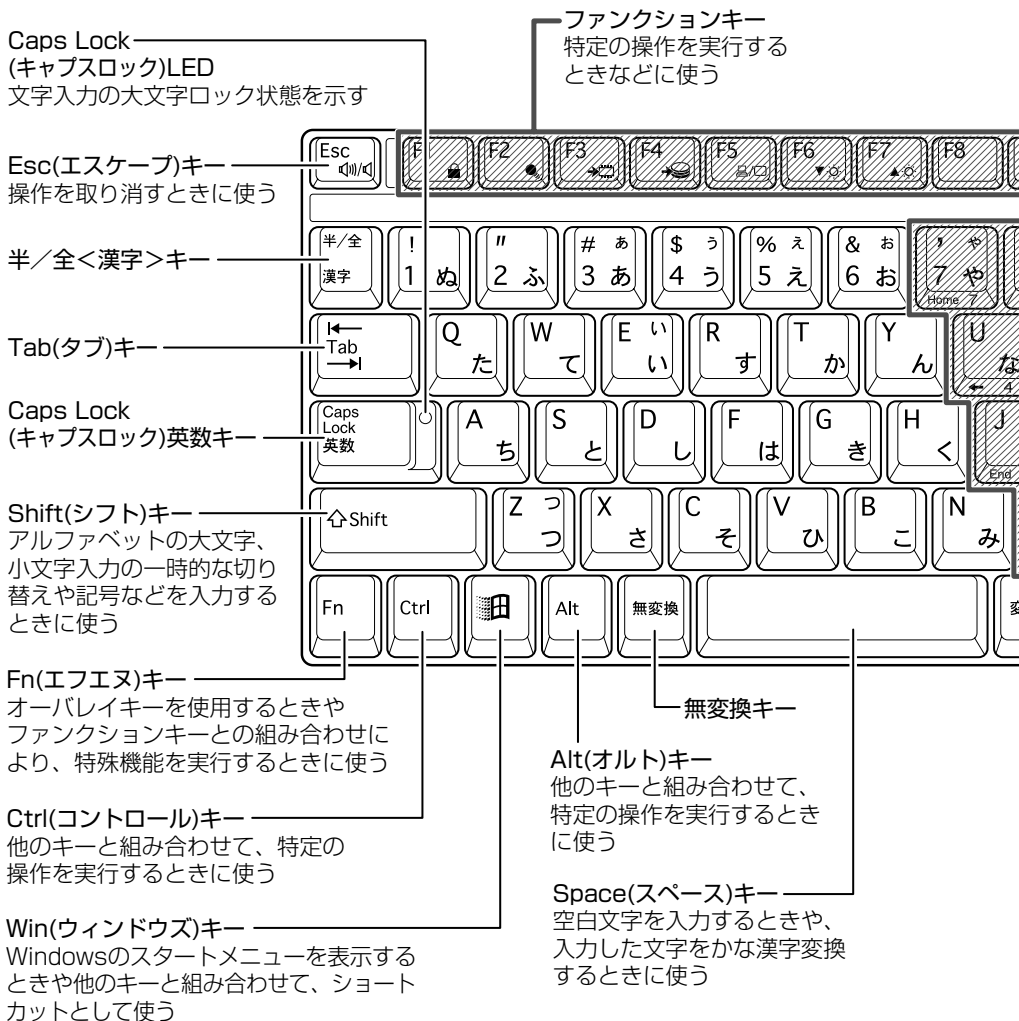
【システムインジケータ】

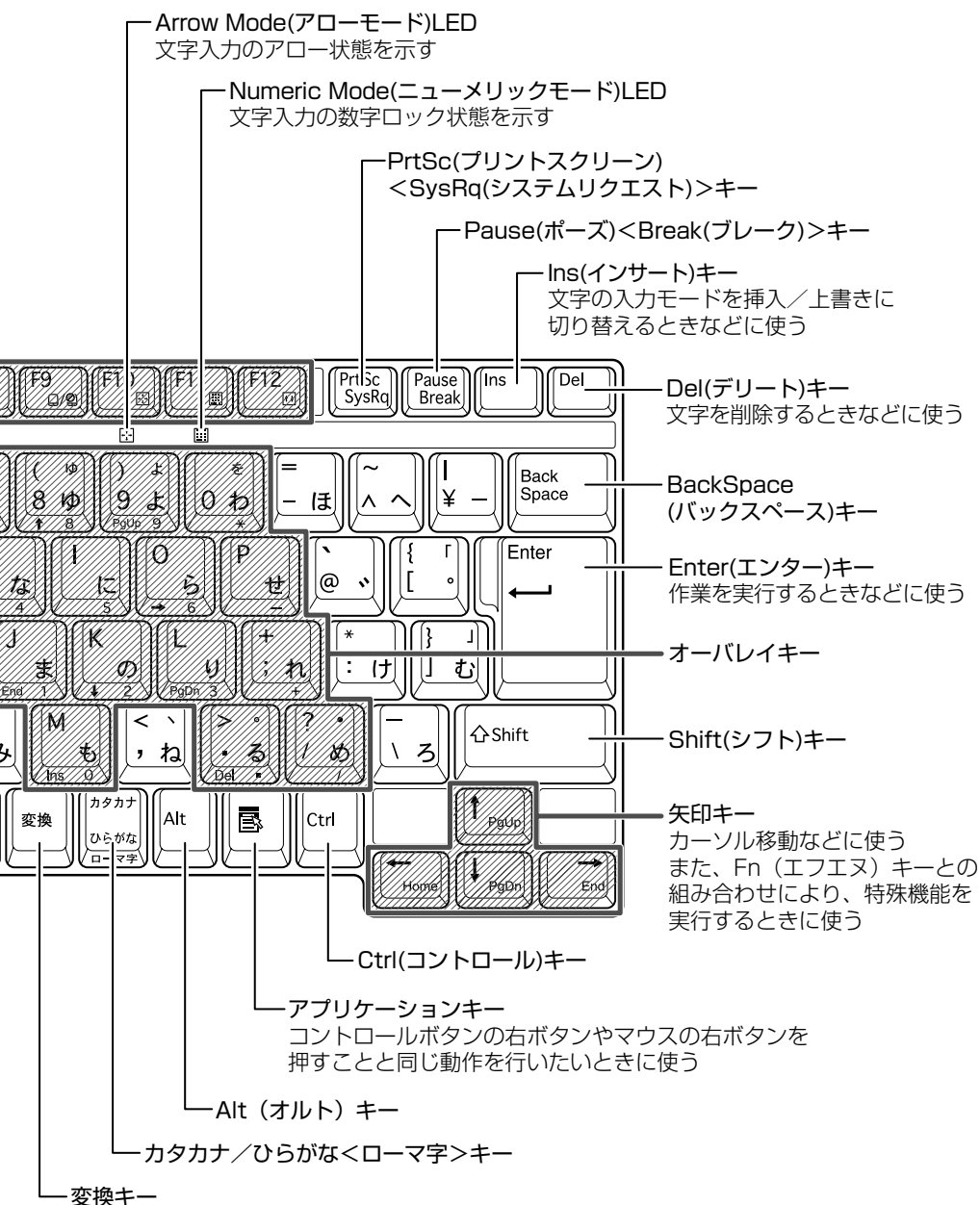
	DC IN LED	電源コードの接続  参照 『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態  参照 『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリーの状態  参照 P.145
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている  参照 P.41
	FDD/CD-ROM LED	フロッピーディスクドライブかドライブにアクセスしている  参照 P.44、53、66、77

3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。その場合、他の 2 つは解除して消灯してください。

【 キーシフトインジケータ 】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力 できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバレイキーで、キーの前面 左側に印刷されたカーソル制御 ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバレイキーで、キーの前面 右側に印刷された数字などの文 字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう 1 度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【(Fn)キーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn) + (Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度(Fn) + (Esc)キーを押します。
(Fn) + (F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時によろこそ画面に戻る] をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作する ② ユーザが複数の場合はユーザ名をクリックする ③ パスワード入力画面に Windows のログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す パスワードによる保護を設定していない場合は、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると解除できます。
(Fn) + (F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn) + (F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
(Fn) + (F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	省電力モードが切り替わります。(Fn) + (F3)キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます。
(Fn) + (F4) 〈休止状態の実行〉	(Fn) + (F4)キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、休止状態が実行されます。

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 詳細について  「4 章 5 テレビを接続する」
(Fn)+(F6) 〈ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッド オン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度、(Fn)+(F9)キーを押します。  「本章 4-4 タッチパッドを無効／有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excel など）によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。
(Fn)+(↑) 〈PgUp（ページアップ）〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↑)キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn)+(↓) 〈PgDn（ページダウン）〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↓)キーを押すと、次のページに移動できます。
(Fn)+(←) 〈Home（ホーム）〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(←)キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn)+(→) 〈End（エンド）〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(→)キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

【 ⌘ キーを使ったショートカットキー 】

キー	操作
⌘ + (R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
⌘ + (M)	すべてをアイコン化する
(Shift) + ⌘ + (M)	すべてのアイコン化を元に戻す
⌘ + (F1)	『ヘルプとサポート』を起動する
⌘ + (E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
⌘ + (F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl) + ⌘ + (F)	他のコンピュータを検索する
⌘ + (Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
⌘ + (Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt) + (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、ただちに購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

4 タッチパッド

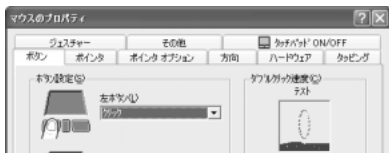
タッチパッドを、使いやすく設定できます。

1 タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ]で行います。

1 [マウスのプロパティ] の設定方法

- 1 通知領域の[タッチパッド] () アイコンをダブルクリックする画面が表示されます。



- 2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2 タッピング機能

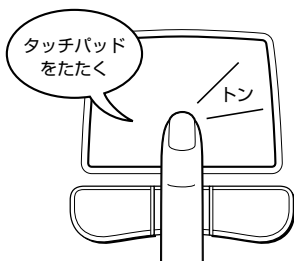
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

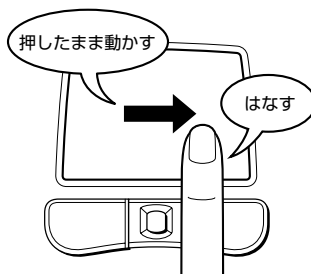
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[タッピング] タブでできます。[タッピング] タブで設定できる機能は、次のようになっています。



タッピング	チェックする（ ☒ ）と、タッピング機能が使用できます。続けてタッピングするときの速度は、スライダバーを動かして調節します。
ドラッグロックの設定	[ドラッグロック] をチェックすると、タッピングでドラッグした場合、指を離してもドラッグ状態を保てます。[自動解除] を選択すると一定時間経ったらドラッグ状態を解除し、[タッピングまたはクリックで解除] を選択するとタッピングまたはクリックでドラッグ状態を解除します。 自動解除の時間は、スライダバーを動かして調節できます。
キー入力時タップしない	チェックする（ ☒ ）と、キーボードから文字を入力している間はタッピング機能が効かなくなります。入力中に意図しない場所をクリックしてしまうのを防ぐことができます。

参照 関連情報は

『基本をマスター 1 章 1 タッチパッド／マウスと CD／DVD』

3 タッピング機能を便利に使う

[ジェスチャー] タブで設定します。

タッチパッドの右上、左上をタッピングしたときの動作や、スクロール機能を設定できます。



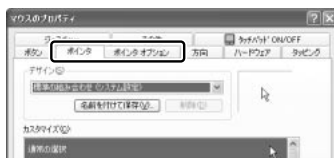
左コーナーの設定 右コーナーの設定	タッチパッドの左上、右上をタッピングしたときの動作を設定できます。
ブラウザ補助機能を使う	チェックする (☒) と、タッチパッドの上端に指を合わせて左右に動かしたときに、ブラウザの「進む」「戻る」の動作を行うことができます。
スクロール機能を使う	チェックする (☒) と、タッチパッドの右端、下端に指を合わせて上下または左右に動かしたときに、スクロール機能を使用できます。

役立つ 操作集

ポインタの形や速度を変える

「マウスのプロパティ」では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡を設定できます。



3 その他の設定

〔その他〕タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。



【サウンドフィードバック】

〔使用する〕をチェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。

〔設定〕ボタンをクリックすると、[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

〔サウンド〕タブの [プログラムイベント] で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

【トレイアイコン】

〔タスクバーにアイコンを表示する〕をチェックすると、通知領域に [タッチパッド] アイコン () が表示されます。

【IMEキャプチャー】

〔使用する〕をチェックすると、タッチパッドをIMEパッドの手書き入力エリアとして使用できます。

使用中は、ポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

【イーजीキャプチャーの設定】

イーजीキャプチャー機能を使うと、ペイントを起動せずに簡単な絵を描いて、起動中のアプリケーションに貼り付けることができます。

イーजीキャプチャー機能を使用する場合は、あらかじめ [ジェスチャー] タブの [左コーナーの設定] または [右コーナーの設定] で「イーजीキャプチャー」を指定しておきます。

【 イージーランチャーの設定 】

イージーランチャー機能とは、ランチャー画面のボタンをクリックするだけで、「最小化」「閉じる」などの操作を実行したり、登録したアプリケーションやファイルを起動できる機能です。

イージーランチャー機能を使用する場合は、通知領域の［タッチパッド］アイコン（)を右クリックし、表示されるメニューから［イージーランチャー］をクリックします。または、あらかじめ［ジェスチャー］タブの［左コーナーの設定］または［右コーナーの設定］で「イージーランチャー」を指定しておきます。

4 タッチパッドを無効／有効にするには

［タッチパッド ON/OFF］タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。



【 タッチパッドのON/OFF 】

［有効］をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、［無効］をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

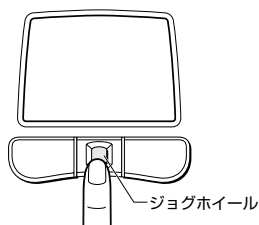
タッチパッドの無効／有効は、**(Fn) + (F9)**キーでも切り替えることができます。

(Fn) + (F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

オートスクロール

ジョグホイールを押すと、ポインタが  に変わります。スクロールしたい方向にポインタを少し動かすと、ポインタの形がスクロールしたい方向の矢印に変わり、自動的に画面がスクロールされます。もう1度ジョグホイールを押すと、通常の状態に戻ります。

アプリケーションによっては対応していない場合もあります。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

5 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示する、CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 → CRT ディスプレイの接続について
「4 章 6 CRT ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られておりますが、ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめ了承してください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	1,677 万色
1600 × 1200 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1 ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

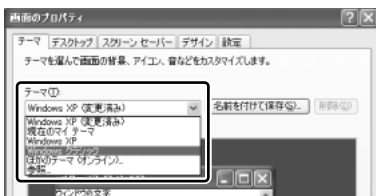
[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [テーマ] タブの [テーマ] で  ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

- 3 [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windows に用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

1 【デスクトップの表示とテーマ】画面で【デスクトップの背景を変更する】をクリックする

【画面のプロパティ】画面が表示されます。

2 【デスクトップ】タブの【背景】で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は「草原」を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル
bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。
- 画像の位置を指定する
画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。
【表示位置】で【中央に表示】、【並べて表示】、【拡大して表示】から選択します。

3 【OK】ボタンをクリックする

スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

1 【デスクトップの表示とテーマ】画面で【スクリーンセーバーを選択する】をクリックする

【画面のプロパティ】画面が表示されます。

2 [スクリーンセーバー] タブの [スクリーンセーバー] で ボタンをクリックし、目的のスクリーンセーバを選択する



画面は [Windows XP] を選択する場合の表示例です。

スクリーンセーバによっては、パソコンの絵の中にプレビューが表示されます。
[プレビュー] ボタンをクリックすると、画面全体にスクリーンセーバのプレビューが表示されます。プレビューを中止したい場合は、タッチパッドを操作してください。

- **【待ち時間】の時間（分数）を設定する**
例えば、「5」に設定すると、パソコンの電源を入れた状態で5分間、タッチパッドを操作せず、キーボードから入力を行わなかったとき、スクリーンセーバが表示されます。
- **【パスワードによる保護】**
チェックすると、スクリーンセーバ解除時に、パスワードの入力画面を表示します。

3 「OK」 ボタンをクリックする

動作中のスクリーンセーバを解除するには、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドの操作を行ってください。

[パスワードの保護] をチェックしている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。
Windows のログオンパスワードを入力してください。

解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で[画面解像度を変更する]をクリックする

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 「設定」タブの「画面の解像度」で、解像度を変更する



3 「OK」ボタンをクリックする

ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- 1 「デスクトップの表示とテーマ」画面で [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 「デザイン」タブの「配色」で、  ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。
画面は、[シルバー] を選択する場合の表示例です。

3 「OK」ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

6 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

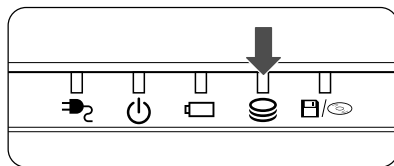
PC カードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1 ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



PC カードタイプや i.LINK（IEEE1394）対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk  LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップを取ることを推奨します。

7 サウンド機能

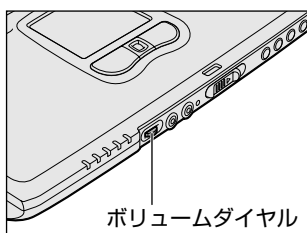
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調整
できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。



2 マスタ音量で調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にとするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェック
すると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調整できます。

マスタ音量	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD（Windows Media Player の場合）、DVD-ROM、DVD-Video など
CD オーディオ	音楽 CD（Windows Media Player 以外の場合）

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク]：外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に 2 つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声は「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

8 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 フロッピーディスク

フロッピーディスクについて説明します。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品で可以使用できるフロッピーディスクには 3 種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

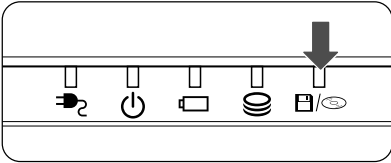
フロッピーディスクの種類	1 枚に保存できる容量	読み出し / 書き込み	フォーマット
2DD タイプ	720KB	可	不可
2HD タイプ	1.2MB	可	不可
2HD タイプ	1.44MB	可	可

ソニー（株）製の 3.5 型フロッピーディスク（2DD / 2HD）を使用することを推奨します。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、フロッピーディスクとデータをやり取りしているときは、FDD/CD-ROM  LED が点灯します。



2) フロッピーディスクのセットと取り出し

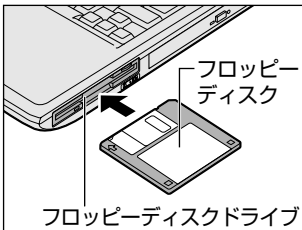
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

⚠ 注意

パソコン本体の電源が入っている場合で、FDD/CD-ROM 目/ LED が点灯中は、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンに触れたり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
フロッピーディスクのデータやフロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

1 フロッピーディスクのセット

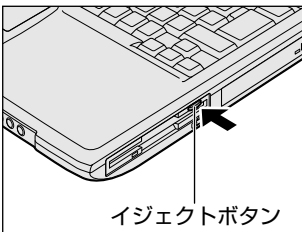
- 1 フロッピーディスクの隅に示されている矢印の向きにあわせて挿入する



「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

2 フロッピーディスクの取り出し

- 1 イジェクトボタンを押す



フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 フロッピーディスクの内容を確認する

1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

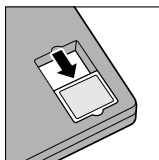
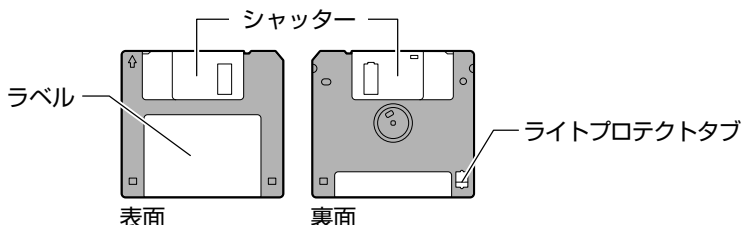
2 [3.5 インチ FD (A:)] をダブルクリックする

[3.5 インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3) フロッピーディスクを使う前に

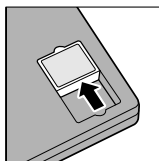
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム (OS) にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HD タイプ（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。2HD タイプ（1.44MB）のフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前に Windows でフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOS の起動ディスクを作成する】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOS の起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

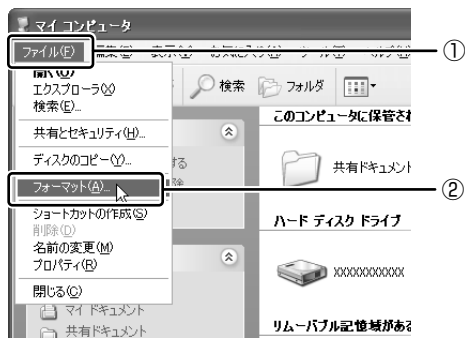
1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする**2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする**

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 [3.5 インチ FD (A:)] をクリックする

[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②



アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面が表示されます。

5 必要に応じて [フォーマットオプション] を設定し、[開始] ボタンをクリックする

クイックフォーマットを行う場合は、[クイックフォーマット] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面で [閉じる] ボタン () をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめ了承してください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

9 ドライブ

本製品には、購入したモデルによってマルチドライブまたは DVD-R/-RW ドライブが 1 台内蔵されています。マルチドライブは CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ちます。DVD-R/-RW ドライブは、マルチドライブに加えて、DVD-R/-RW への読み込み、書き込み機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 CD / DVD について

CD、DVD について説明します。

1 使用できるCD

読み込みできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録されています。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
CD-R の書き込み速度はモデルによって異なります。
DVD-R/-RW ドライブモデルでは最大 16 倍速、マルチドライブモデルでは最大 24 倍速です。24 倍速で書き込むためには 24 倍速書き込みに対応した CD-R を使用してください。
- CD-RW
CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。
2 / 4 倍速対応（マルチスピード）CD-RW メディアを使用した場合は最大 4 倍速です。High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合は最大 10 倍速です。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

マルチドライブモデルの場合

CD-RW : 三菱化学 (株)、リコー (株)

CD-R : 太陽誘電 (株)、三井化学 (株)、三菱化学 (株)、リコー (株)、
日立マクセル (株)

DVD-R/-RW ドライブモデルの場合

CD-RW : リコー (株)

CD-R : 太陽誘電 (株)

これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。

2 使用できるDVD

読み込みできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM ● DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R ● DVD-RW

DVD-R/-RW ドライブモデルでは、DVD-R、DVD-RW への書き込みができます。書き込みできる DVD は次の種類です。

- DVD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。

- DVD-RW

DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

お願い DVD-R/-RW ドライブモデルの使用の場合

- DVD-RW、DVD-R に書き込む際には、次のメーカーの DVD-RW、DVD-R を使用することを推奨します。
DVD-RW : 日本ビクター (株)
DVD-R : 太陽誘電 (株)
これらのメーカー以外の DVD-RW、DVD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- DVD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW に書き込んだデータの一部を削除することはできません。書き込まれたデータの変更は、まずすべてのデータを消去し、改めて必要なデータだけを再書き込みする必要があります。
- DVD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、必ずしもメディアに記載された容量分のデータを書き込むことはできません。
- DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、DVD の規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約 1GB に満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小 1GB のデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。

メモ

- 市販の DVD-RW、DVD-R には業務用メディア (for Authoring) と一般用メディア (for General) があります。業務用メディアは一般用メディアとパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア (for General) を使用してください。
- 市販の DVD-RW、DVD-R には「for Data」と「for Video」の 2 種類があります。読み込んだ画像を保存する場合や家庭用 DVD ビデオレコードとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

3 使用できるメディアと対応するアプリケーション

本製品のドライブで使用できるメディアと、本製品に付属のアプリケーションで書き込みできるメディアと Video フォーマットは次のとおりです。

【 DVD-R/-RW ドライブモデルの場合 】

○：使用できる ×：使用できない －：対応していない

メディア	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み込み	○	○	○	○	○	×	×
書き込み回数	1 回	繰り返し 書換可能*1	1 回	繰り返し 書換可能*1	×	×	×
Drag'n Drop CD *2	○	○	○	○	－	－	－
DVDfunSTUDIO *2	－	－	○	○	－	－	－
DVD-Video *3	－	－	○	○	×	－	－

* 1：実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

* 2：付属のアプリケーションです。

* 3：Video フォーマットです。

【 マルチドライブモデルの場合 】

○：使用できる ×：使用できない －：対応していない

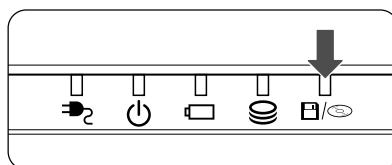
メディア	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み込み	○	○	○	○	○	×	×
書き込み回数	1 回	繰り返し 書換可能*1	×	×	×	×	×
Drag'n Drop CD *2	○	○	×	×	－	－	－

* 1：実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

* 2：付属のアプリケーションです。

4 ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、FDD/CD-ROM 電源 LED が点灯します。

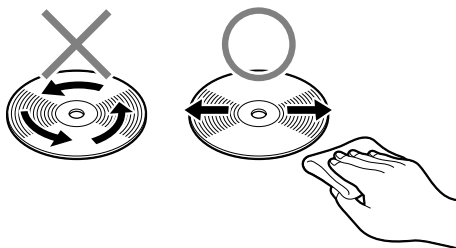


CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



10 SD メモリカード

SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

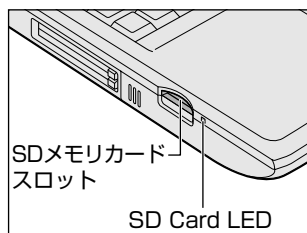
本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

1 SDメモリカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



2 SD メモリカードのセットと取り出し

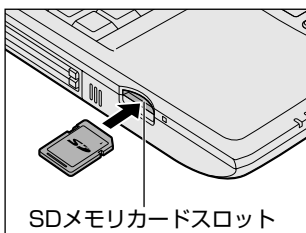
SD メモリカードをSD メモリカードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

⚠ 注意

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
データやSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- SDメモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブ (E:) を安全に取り外します」(標準値) をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモリカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

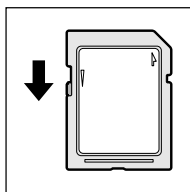
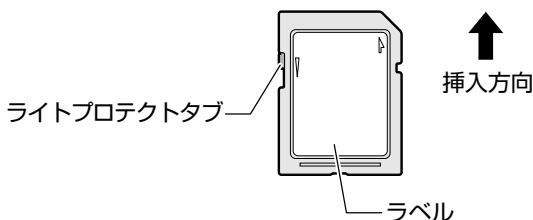
2 [リムーバブルディスク (E:)] (標準値) をダブルクリックする

[リムーバブルディスク (E:)] (標準値) 画面が開き、セットしたSD メモリカードの内容が表示されます。

3 SD メモリカードを使う前に

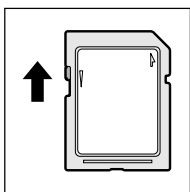
1 ライトプロテクトタブ

SD メモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSD メモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSD メモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモ리카ードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモ리카ードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモ리카ードを使えるようにすることです。

新品のSDメモ리카ードは、SDメモ리카ードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、SDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

注意

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。

お願い

再フォーマットを行うと、そのSDメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用したSDメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。

SDメモ리카ードの取り扱い

SDメモ리카ードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SDメモ리카ードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
SDメモ리카ードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SDメモ리카ードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモ리카ードに付属のケースに入れてください。
- SDメモ리카ードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

11 ワンタッチボタン

本製品には、簡単にインターネットブラウザソフトやメールソフトを起動することができる、3つのワンタッチボタンがあります。

各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Microsoft Outlook
- 東芝コンソールボタン 東芝コンソール  「本節 2 東芝コンソール」

【パソコン本体の電源が入っていないとき】

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

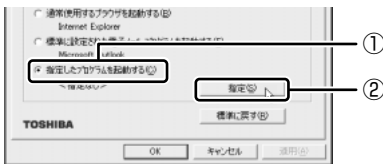
【スタンバイ状態／休止状態のとき】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

1 ボタンを割り当てるアプリケーションを変更する

各ボタンを押して起動するアプリケーションを、自由に設定することができます。ここでは、東芝コンソールボタンに「ペイント」を設定する例で変更方法を説明します。

- 1 **【コントロールパネル】を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする**
- 2 **[ 東芝コントロール] をクリックする**
[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 **【ボタン】 タブで [東芝コンソールボタン] をクリックする**
- 4 **【プログラムの選択】 で [指定したプログラムを起動する] をチェックし①、[指定] ボタンをクリックする②**



購入時は、次のように設定されています。

[通常使用するブラウザを起動する] : Internet Explorer の起動
[標準に設定された電子メールプログラムを起動する]
: Microsoft Outlook の起動。

[指定] 画面が表示されます。

5 [アプリケーション] ボタンをクリックする

[アプリケーションエクスプローラ] 画面が表示されます。

6 [フォルダ] の [プログラム] をダブルクリックする



[プログラム] フォルダの内容が表示されます。

7 [アクセサリ] をクリックしてから① [アプリケーション] の [ペイント] アイコン () をクリックし②、[OK] ボタンをクリックする

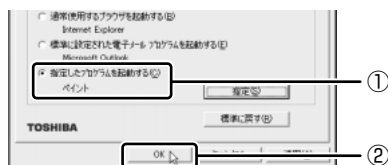


[指定] 画面に戻ります。

8 [アプリケーション名] にペイントが設定されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

9 設定した東芝コンソールボタンの下に「ペイント」と表示されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



東芝コンソールボタンにペイントが設定されます。



参照 東芝コントロールの問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 東芝コンソール

東芝コンソールを使うと、本製品に用意されているさまざまなアプリケーションを、簡単に起動できます。

東芝コンソールボタンを押すか、または〔スタート〕→〔すべてのプログラム〕→〔東芝コンソール〕→〔東芝コンソール〕を選択して起動してください。

次の画面が表示されます。



左画面①で希望のカテゴリをクリックすると、右画面②にアイコンが表示されます。起動したいアプリケーションのアイコンをクリックしてください。

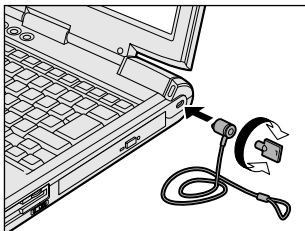
12 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2 章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それを CD に書き込んでオリジナルを作成する。写真や DVD-Video の映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1	音楽 CD を聴く	64
2	音楽ファイルを聴く	67
3	オリジナル音楽 CD を作る	71
4	DVD-Video を観る	76
5	デジタルカメラの写真を編集／整理する	82
6	映像を編集する	85

1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動しない状態でも CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- Windows ウィンドウス Media メディア Player プレーヤ

1 再生方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

購入時は、音楽 CD を再生するアプリケーションとして「Windows Media Player」が選択されています。

参照 ▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 [オーディオ CD の再生 Windows Media Player 使用] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

「Windows Media Player」が起動します。

3 画面のボタンで操作する

「Windows Media Player」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



再生／一時停止

再生または一時停止します。

音量

音量を調整します。



停止

再生を停止します。

ミュート

音を消します。

前へ

再生するトラックを1つ戻します。

次へ

再生するトラックを1つ進めます。

CD/DVD 再生ボタンで起動する

CD/DVD 再生ボタンを使って、アプリケーションを起動することができます。

1 CD/DVD 再生ボタンを押す



「Windows Media Player」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

参照 「Windows Media Player」の問い合わせ先『困ったときは 付録』

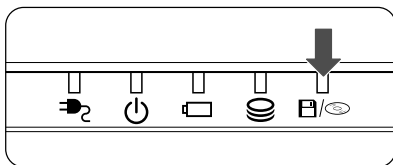
2) Windows を起動しないで音楽 CD を聴く

オーディオプレイボタンを使うと、Windows を起動しないで音楽 CD を再生できます。

1 操作方法

1 CD/DVD 再生ボタンを押す

CD/DVD 再生ボタンを 1 秒程押すとドライブの電源が入り、FDD/CD-ROM 電源 LED がうすい緑色に点灯します。Power LED は点灯しません。

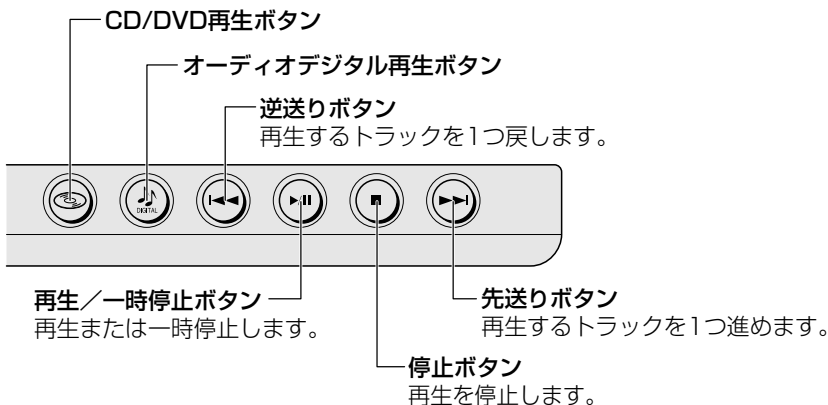


ドライブの電源を入れてから 2 分以上操作がない場合は、自動的にドライブの電源が OFF になり、FDD/CD-ROM 電源 LED が消灯します。その場合は、もう 1 度 CD/DVD 再生ボタンを押して電源を入れ直してください。

2 音楽 CD をセットする

ドライブのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

3 オーディオプレイボタンで操作する



4 終了する場合は、音楽 CD を取り出してから CD/DVD 再生ボタンを押す

FDD/CD-ROM 電源 LED が消えるまで押してください。

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式(.wav) ●MIDI形式(.mid) ●MP3形式(.mp3) など

1 音楽再生用アプリケーションを起動する

オーディオデジタル再生ボタンを使ってアプリケーションを起動することができます。

1 起動方法

1 オーディオデジタル再生ボタンを押す

パソコンに電源が入っていない場合は、オーディオデジタル再生ボタンを1秒程押すと電源が入ります。



「Windows Media Player」が起動します。

参照 Windows Media Playerの操作について
「本章 1-① Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 Windows Media Playerでファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

1 メニューバーから【ファイル】→【開く】をクリックする

2 聴きたい曲のファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

参照 関連情報は「本章 1- ❶ Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル (CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど) をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽 CD のトラックをコピーする場合
 - ① 音楽 CD をセットする
 - ② [CD からコピー] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽のコピー] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

6 メディアライブラリの中から再生リストに追加するファイルをクリックする



7 「再生リストに追加」 ボタンをクリックしてメニューを表示し、目的の再生リストを選択する



ここでは例として「新規リスト」を選択します。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 「メディアライブラリ」画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 「再生」ボタン (▶) をクリックする 再生が開始されます。

3 オリジナル音楽 CD を作る

「Drag'n Drop CD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽 CD を作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

1 Drag'n Drop CD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD」を使用してください。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトは、使用しないでください。

「Drag'n Drop CD」は、本製品にはインストールされていません。インストールしてから使用してください。

▶ 参照 「Drag'n Drop CD」のインストールについて
「本項 1 インストール方法」

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、使用しているパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

▶ 参照 CD-RW、CD-R について 「1 章 9-① CD / DVD について」

- 本製品に添付の「Drag'n Drop CD」以外の CD-RW、CD-R 書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
- スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウイルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動している場合は、終了させてください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

▶ 参照 省電力機能について 「5 章 2 省電力の設定をする」

- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- SD メモリカード、スマートメディア、フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオプレイボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 本製品に付属している「Drag'n Drop CD」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。
- 「Drag'n Drop CD」の [Music BOX] () を使用して、DVD-RW、DVD-R に音楽情報を書き込むことはできません。

「Drag'n Drop CD」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

1 インストール方法

1 添付の CD をセットする

〔設定言語の選択〕画面が表示されます。

 参照 CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

- 2 【日本語】が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする
[Drag'n Drop CD セットアップ] 画面が表示されます。
- 3 画面の指示に従って「Drag'n Drop CD」をインストールする
- 4 再起動する

2 Drag'n Drop CD を使う

インストールされた「Drag'n Drop CD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

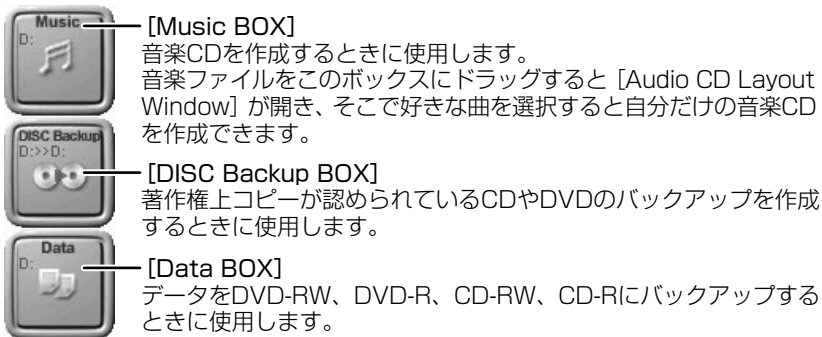
「Drag'n Drop CD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



参照 ➡ 詳細について『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』

「Drag'n Drop CD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。CD に保存されている MP3 方式または WAVE 方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CD から直接 [Music BOX] にドラッグできません。1 度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽CDをドライブにセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

2 [キャンセル] ボタンをクリックする

[Audio CD (D:)] 画面が閉じます。

3 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

4 [Audio CD (D:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽 CD トラック情報] には曲情報が表示されています。

5 [ブランク CD サイズ] を指定する

6 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[トラックの再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



7 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。完了すると、[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



トラックを選択して、 ボタンまたは  ボタンをクリックすると、選択したトラックが上下へ移動し、曲順が入れ替わります。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽 CD から取り込みたい場合は、ここで音楽 CD を入れ替え、手順 6、7 を繰り返します。

8 ドライブに未使用の CD-R をセットする

9 [CD へ書き込み] ボタン () をクリックする

CD への書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、マルチドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CD のヘルプ] をクリックする

「Drag'n Drop CD」のヘルプが表示されます。

 参照 「Drag'n Drop CD」の問い合わせ
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 DVD-Video を観る

本製品は、ドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、「InterVideo WinDVD」^{インタービデオ} が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
 - DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
 - DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
 - 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
 - DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
- 再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。
- 外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示されません。

 参照 ▶ 表示装置の切り替え「4 章 5-2 テレビを表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」は Windows からでも、Windows が起動していない状態（電源が入っていないなど）でも起動することができます。

1 Windowsから起動する

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

▶ 参照 DVD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 [DVD ムービーの再生 WinDVD 使用] を選択し①、[OK] ボタンをクリックする②



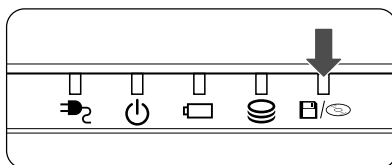
「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 CD/DVD再生ボタンから起動する

Windows が起動していないときに、CD/DVD 再生ボタンで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

1 CD/DVD 再生ボタンを押す

CD/DVD 再生ボタンを 1 秒程押すとドライブの電源が入り、FDD/CD-ROM 電源 LED がうすい緑色に点灯します。Power LED は点灯しません。



2 DVD-Video をセットする

DVD-Video をセットした場合、「InterVideo WinDVD」が起動します。

Windows が起動するまで、数秒かかる場合があります。

DVD-Video を再生する場合は、続けて「再生」ボタンをクリックしてください。

2 InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ
ビデオを表示します。

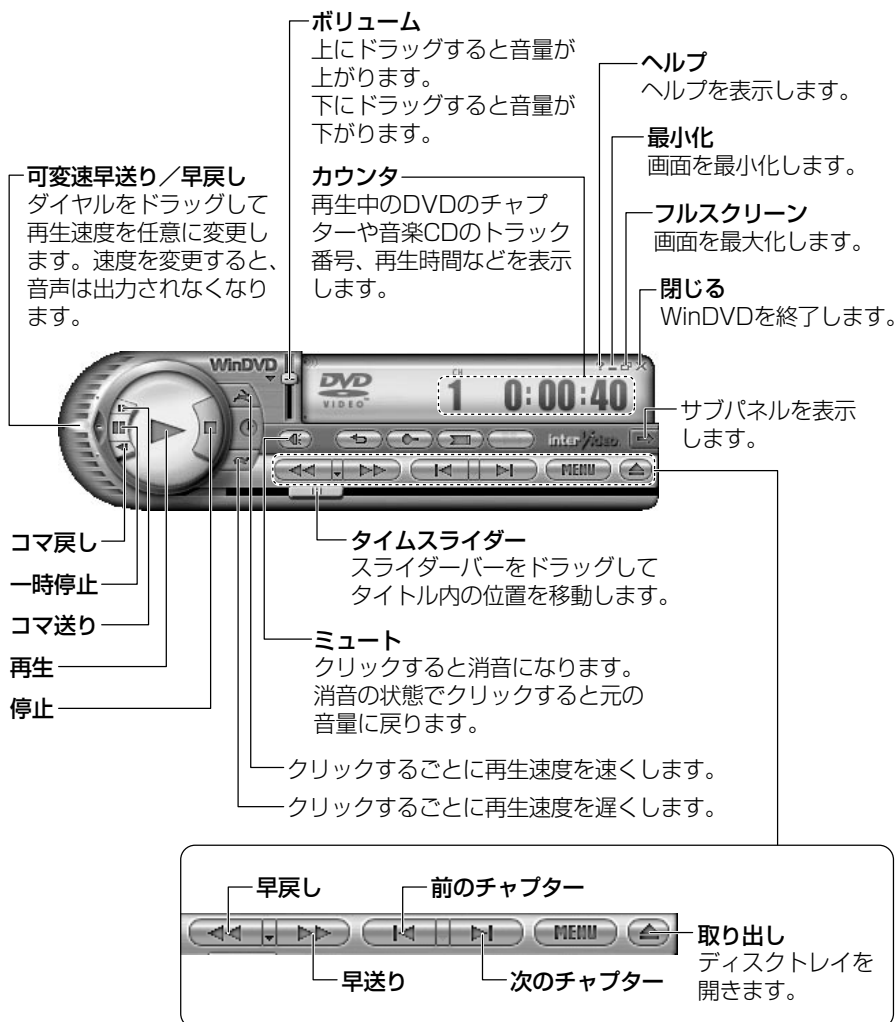


WinDVDコントロールパネル

DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照して
ください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD 再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

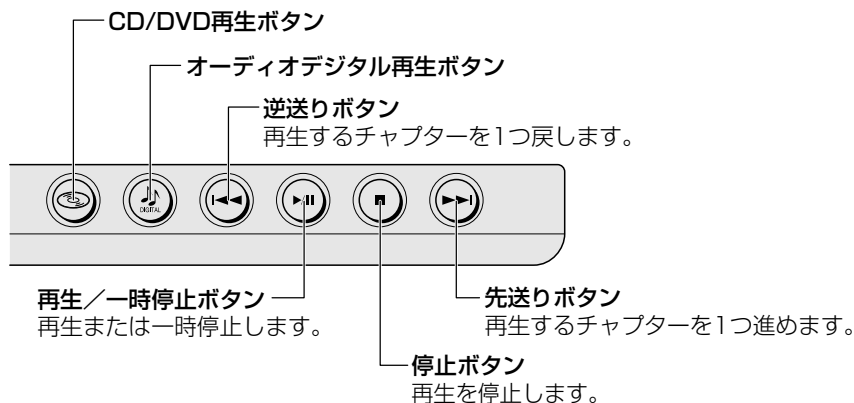
- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 オーディオプレイボタンで操作する

DVD-Video の基本操作は、オーディオプレイボタンを使うこともできます。



5 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Video の再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

参照 ▶ テレビの接続、表示装置の切り替え 「4 章 5 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

1 [ヘルプ] ボタン () をクリックする

参照 ▶ 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

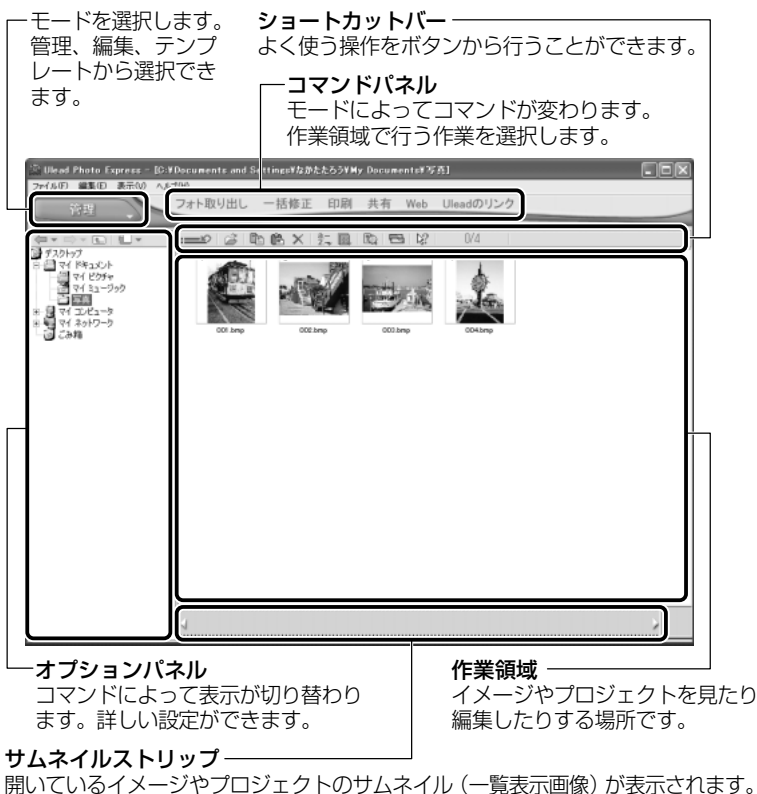
本製品には、画像を編集できるアプリケーション「^{ウォーカー}デジカメ Walker (^{ユーリード}Ulead ^{アイフォト}iPhoto ^{エクスプレス}Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする



「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を初めて起動したときは、
[ユーザ登録] 画面が表示されます。

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

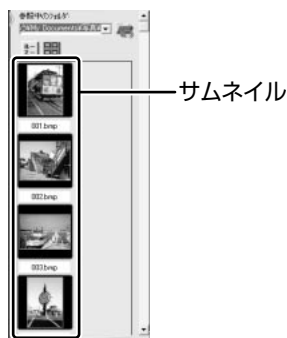
1 【編集】モード（）でコマンドパネルから【フォト取り出し】→【マイコンピュータ】をクリックする

オプションパネルに「参照中のフォルダ」が表示されます。

2 をクリックし、表示されたメニューから編集する写真のあるフォルダをクリックする

オプションパネルにサムネイルが表示されます。

3 編集する画像のサムネイルをクリックし、【開く】ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

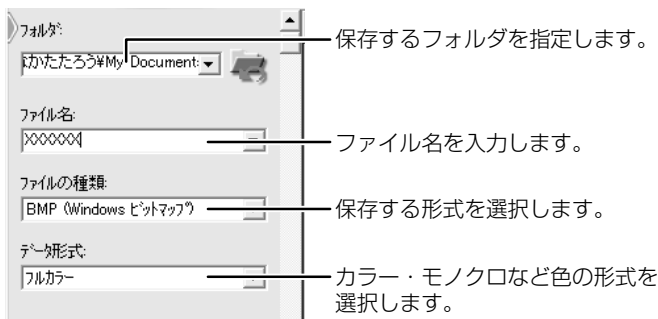
4 コマンドパネルから【編集】のメニューをクリックし、画像を加工する

次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

- 1 コマンドパネルから【共有】→【保存】をクリックする
オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



- 2 【保存】 ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【Ulead iPhoto Express のヘルプ】をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 【スタート】→【すべてのプログラム】→【デジカメ Walker】→【Screenbook】をクリックする

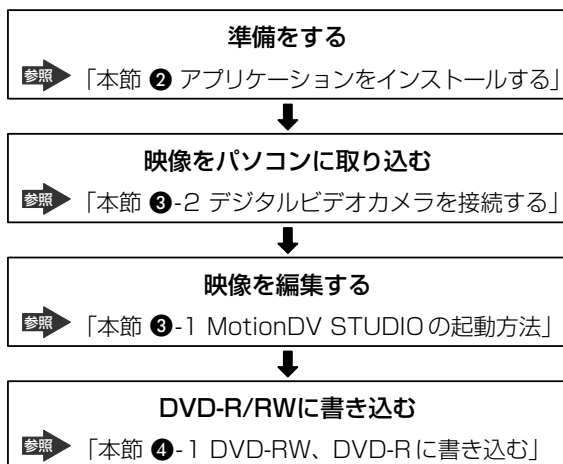
➡ 参照 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

6 映像を編集する

1 映像編集の流れ

本製品には、映像を編集することができるアプリケーション「モーションディープイ スタジオMotionDV STUDIO」ディープイディファンススタジオと「DVDfunSTUDIO」（DVD-R/-RW ドライブモデルのみ）が用意されています。また、「DVDfunSTUDIO」ではDVD-Video形式の映像DVDを作成することができます。

映像を編集する流れは、次のとおりです。



2 アプリケーションをインストールする

「MotionDV STUDIO」と「DVDfunSTUDIO」（DVD-R/-RW ドライブモデルのみ）は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

お願い

アプリケーションのインストールは、アカウントがコンピュータの管理者のユーザで行ってください。

1 MotionDV STUDIOのインストール方法

1 「MotionDV STUDIO」と記載されているCDをセットする

参照 CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「MotionDV STUDIO」をインストールする

2 DVDfunSTUDIOのインストール方法

※ DVD-R/-RW ドライブモデルのみ

1 「DVDfunSTUDIO」と記載されているCDをセットする

 参照 CDのセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「DVDfunSTUDIO」をインストールする

3 映像を編集する

「MotionDV STUDIO」を使うと、デジタルビデオカメラの映像を編集できます。デジタルビデオカメラをi.LINK（IEEE1394）コネクタに接続して、撮影した映像をパソコンに取り込みます。特殊効果やタイトル、BGMなどをつけて編集し、さまざまな形式で保存できます。

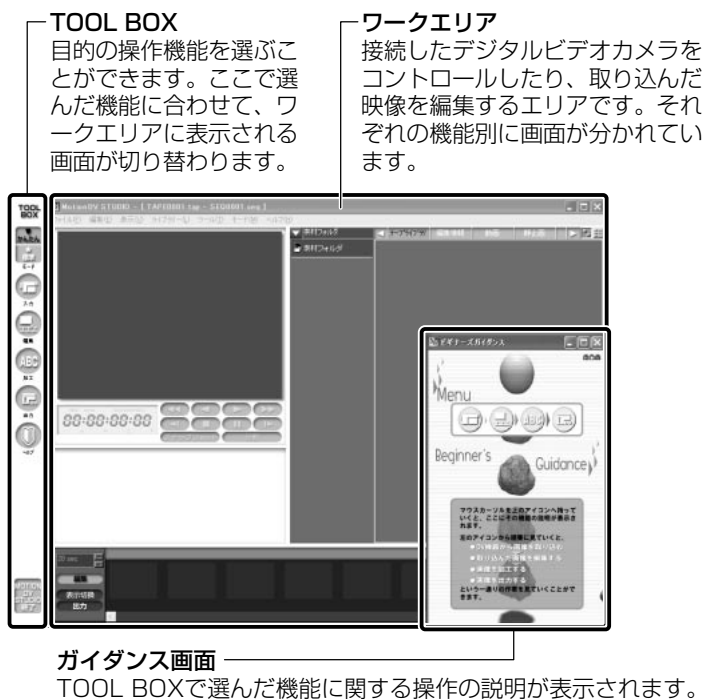
詳細については、「MotionDV STUDIO」のヘルプを確認してください。

お願い 映像データの編集について

- WinDVD など映像を表示するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示できない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは、内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。本体に外部ディスプレイを接続している場合、外部ディスプレイには表示されません。
- 「MotionDV STUDIO」動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないください。

1 MotionDV STUDIOの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [MotionDV STUDIO] をクリックする
はじめて「MotionDV STUDIO」を起動したときは、[Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。



2 デジタルビデオカメラを接続する

デジタルビデオカメラを使用する場合、次の手順で正しく接続されているかどうか、確認してください。

1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する



参照 i.LINK ケーブルの接続

「4章 7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する」

2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

3 デジタルビデオカメラの電源を入れる

「デジタル ビデオ デバイス」画面が表示されます。

4 「ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用」が選択されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。

MotionDV STUDIO のヘルプの起動方法

1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーから[ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする

ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

参照 ▶ 「MotionDV STUDIO」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 DVD-RW、DVD-R に編集した映像を書き込む

DVD-R/-RW ドライブモデルでは、編集した映像データを DVD-RW、DVD-R に書き込み、オリジナル DVD を作成することができます。

「MotionDV STUDIO」で編集したデータを DVD-RW や DVD-R に書き込むには、「DVDfunSTUDIO」が必要です。あらかじめそれぞれのアプリケーションをインストールして使用してください。

お願い DVD-RW、DVD-R に書き込む前に

DVD-RW、DVD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 「DVDfunSTUDIO」では、書き込みが可能な DVD-RW、DVD-R へ最大約 3 時間の映像データを DVD ビデオフォーマットで記録できます。

- DVD-RW、DVD-R へ書き込みを行う場合は、アカウントがコンピュータの管理者のユーザで行ってください。
- DVD-RW、DVD-R へ書き込みを行うには、ハードディスクに 20GB 以上の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。
- DVD-RW、DVD-R に書き込みを行う際には、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカのメディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨されているメディアを使用してください。

参照 ▶ DVD-RW、DVD-R について「1 章 9-① CD / DVD について」

- 書き込み済みの DVD-RW に書き込みを行う場合は、「Drag'n Drop CD」などで消去する必要があります。消去方法については、「Drag'n Drop CD」のヘルプを確認してください。

参照 ▶ 「Drag'n Drop CD」のヘルプ「本章 3-② Drag'n Drop CD を使う」

- 8cm サイズの DVD-RW、DVD-R への書き込みはできません。
- DVD-RW、DVD-R に VR フォーマットでの書き込みはできません。
- ヘルプやオンラインマニュアル上に JPEG ファイルが扱える記述がありますが、実際には使用できません。
- 「DVDfunSTUDIO」では DVD-Audio や VideoCD、miniDVD を作成することはできません。
- 本製品に添付の「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」以外の映像データ書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 「Drag'n Drop CD」などドライブをロックするアプリケーションが常駐している場合は、DVD-RW、DVD-R への書き込みは行えません。「Drag'n Drop CD」は必ず終了させてください。
- スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないようにしてください。
- ウイルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動している場合は、終了させてください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

参照 ▶ 省電力機能について「5 章 2 省電力の設定をする」

- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- 「DVDfunSTUDIO」でDVD-RW、DVD-Rに映像データを書き込む場合、映像データの大きさによってはデータの変換に数時間かかることがあります。またメディアの書き込み終了には、さらに数時間かかることがあります。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、画面の解像度と色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PCカード、USB対応機器、CRTディスプレイ、i.LINK対応機器、SDメモ리카ード、
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオプレイボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

お願い 作成したDVD-RW、DVD-Rについて

- 作成したDVD-RW、DVD-Rは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合もあります。

1 DVD-RW、DVD-Rに書き込む

「MotionDV STUDIO」で編集した映像データを、いったん「DVDfunSTUDIO」へ出力し、その後DVD-RWまたはDVD-Rへ書き込みを行います。

- 1 映像の編集を終了したあと、TOOLBOXの【出力】アイコンにポインタを合わせ①、【DVD-R/RWへ出力】アイコンをクリックする②



[DVD-R/RW 出力] 画面が表示されます。

メモ

ファイルの選択をうながすメッセージが表示された場合は、ワークエリアでファイルを選択してから、再度手順1の操作を行ってください。その際、[DVD-R/RW] 出力画面が表示されずに、直接「DVDfunStudio」が起動される場合があります。

【[DVD-R/RW 出力] 画面】

コントロール画面——
書き込みをしたい映像を表示して確認することが出来ます。

ライブラリ画面——
ハードディスクに保存・登録してあるファイルが表示され、閲覧することができます。ここから読み込みたいファイルをコントロール画面にドラッグアンドドロップして指定することもできます。



入出力画面——
書き込みたいファイルを指定して名前を付けたりすることができます。
[出力] ボタンをクリックすると、「DVDfunSTUDIO」が起動します。

はじめて「DVDfunSTUDIO」を起動したときは、[Panasonic DVDfun STUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。

「DVDfunSTUDIO」が起動したら、ドライブにDVD-RW または DVD-R をセットしてください。

参照 ➡ DVD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

DVD-RW、DVD-R への書き込み方法についての詳細は、「MotionDV STUDIO」のヘルプ、または「DVDfunSTUDIO」のヘルプを確認してください。

DVDfunSTUDIO のヘルプの起動方法

1 「DVDfunSTUDIO」を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする

ヘルプを起動すると、「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

 「DVDfunSTUDIO」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、自動的にメールチェックするときや海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 94
 - 2 Bluetooth 機能を使う 97
 - 3 新着メールをLEDで確認する 107
 - 4 内蔵モデムについて 114

1 LAN へ接続する

本製品には、ブロードバンド対応のLAN 機能が内蔵されています。

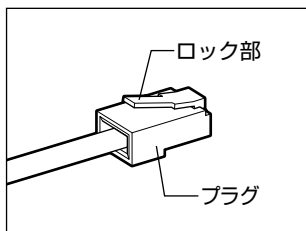
LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するときには、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するときには、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

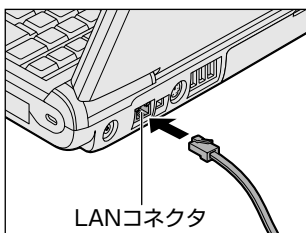
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。カテゴリ 1 ～ 5 まであり、数字が高いほど品質が高くなります。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグを背面の LAN コネクタに差し込む



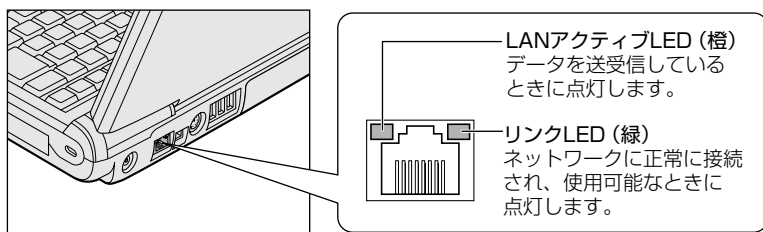
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LAN コネクタの両脇には、LAN インタフェースの動作状態を示す 2 つの LED があります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

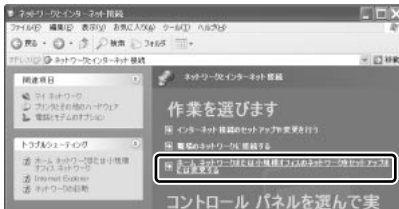
購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

⚠ 注意

- ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

- 1 **【コントロールパネル】を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする**

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



「ネットワークセットアップウィザードの開始」画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 Bluetooth 機能を使う

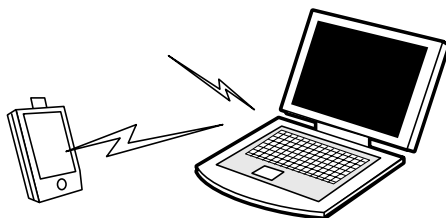
1 Bluetooth とは

ブルートゥース

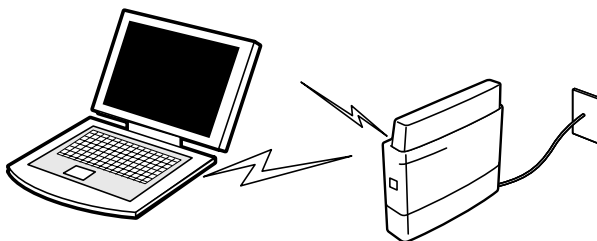
Bluetooth とは、無線通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD メモリカードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のモデムステーションを利用してインターネットに接続できたりします。

● PDA と…

(使用例)



● Bluetooth 対応のモデムステーションと…



また、Bluetooth 機能機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、最初に発信する Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz 帯の Wireless- LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

お願い

本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。

【通信距離と速度】

本製品は、見通し約 10 m の範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約 720kbps です。通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OS などにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

【セキュリティ】

Bluetooth 機能を使って通信を行うときに使用する 2.4GHz 帯は、日本をはじめ世界各国で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定の Bluetooth 対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth 対応機器には、それぞれ固有の ID が割り振られ、接続時には ID の交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能があります。また、本製品にインストールされている「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の「Bluetooth Service Center」で、初めて通信を開始するときに「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。

 参照 Bluetooth パスキーについて『Bluetooth User's Guide』

【Bluetooth 標準規格】

Bluetooth は様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国・各メーカーの Bluetooth 対応機器でスムーズに通信できるように Bluetooth SIG（Special Interest Group）が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。また、各メーカーは Bluetooth 対応機器の発売にあたり、その Bluetooth 対応機器が Bluetooth 標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIG によって認証された Bluetooth 対応機器には、Bluetooth ロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。

【サポートしているプロファイル一覧】

本製品でサポートしているプロファイルは次のとおりです。

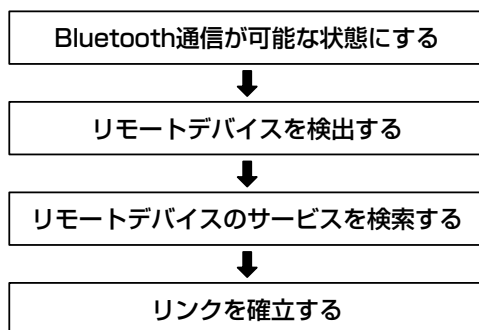
- Generic Access
- Service Discovery Application
- Serial Port
- Dial-up Networking
- FAX
- LAN Access

2 Bluetooth 機能を使って通信する

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth 東芝ユーティリティ」がプレインストールされています。

「Bluetooth 東芝ユーティリティ」は、「Bluetooth Manager」、「Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)」、「Bluetooth Local COM」、「Network Server Service (LAN エミュレーションネットワークサーバーサービス)」の 4 つのアプリケーションにより構成されており、その中心となるのは「Bluetooth Manager」と「Bluetooth サービスセンター」です。

ここでは「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の基本的な使いかたを紹介します。通信するまでの流れは、次のとおりです。



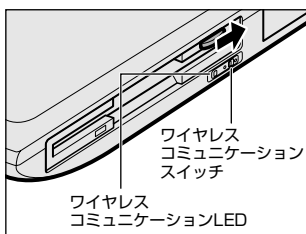
1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠ 警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

Bluetooth 機能の起動方法

- 1 本体右側にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



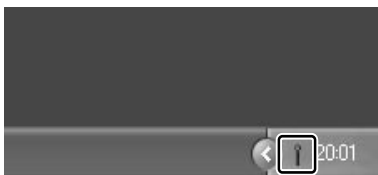
ワイヤレスコミュニケーション (📶) LED がオレンジ色に点灯します。

- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [Bluetooth Manager] をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン (🔌) が表示されます。

はじめて起動したときは、[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。

途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としませんので、[続行] ボタンをクリックして次の画面に進んでください。

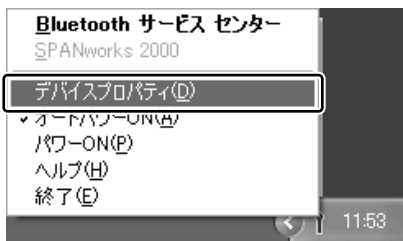


[Bluetooth Manager] アイコン (🔌) はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

デバイス名の設定

自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。一度設定した名前を使用するときには、この操作は必要ありません。

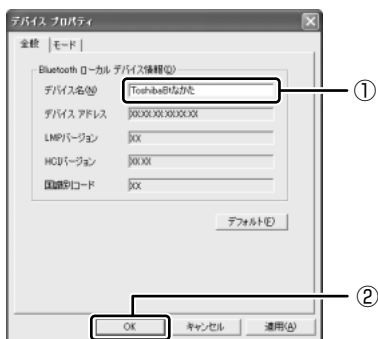
- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [デバイスプロパティ] をクリックする



[デバイスプロパティ] 画面が表示されます。

- 3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②

ここでは、名前を「ToshibaBT なた」を入力しています。



デバイス名が設定されます。

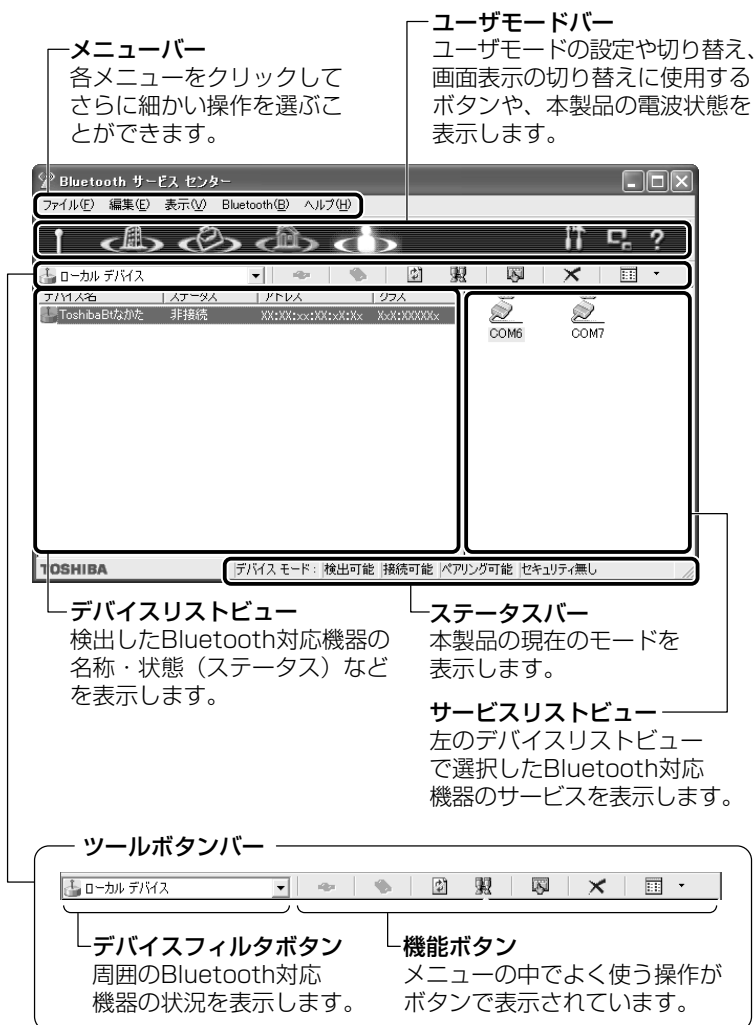
Bluetooth Service Center の起動

「Bluetooth Service Center」は、Bluetooth サービス (Bluetooth での通信の種類) を統合的に管理するユーティリティです。「Bluetooth Service Center」で、他の Bluetooth 対応機器との通信に関する操作を行います。

- 1 Bluetooth 通信が可能な状態にする
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () をダブルクリックする

「Bluetooth Service Center」が起動します。

【Bluetooth Service Center】画面】

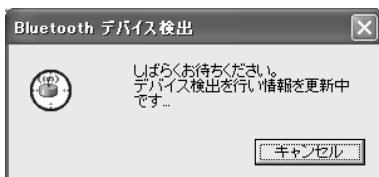


2 リモートデバイスを検出する

デバイスの検出を行うと、その時点で通信可能な他の Bluetooth 対応機器がわかります。通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。

1 [デバイス検出] ボタン () をクリックする

リモートデバイスの検出を開始します。



デバイスフィルタ欄が「リモートデバイス」に変わり①、検出されたリモートデバイスがデバイスリストビューに表示されます②。



検出の結果は、環境、リモートデバイスの状態によって異なります。

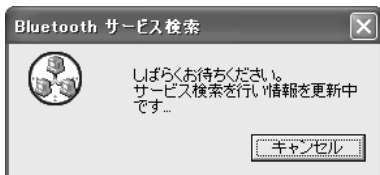
3 リモートデバイスのサービスを検索する

検出したデバイスが、どのようなサービス (Bluetooth での通信の種類) を実行できるのかを調べます。

1 目的のリモートデバイスをクリックし①、[サービス検索] ボタン () をクリックする②



リモートデバイスのサービスの検索を開始します。



サービスリストビューにリモートデバイスのサービスが表示されます。

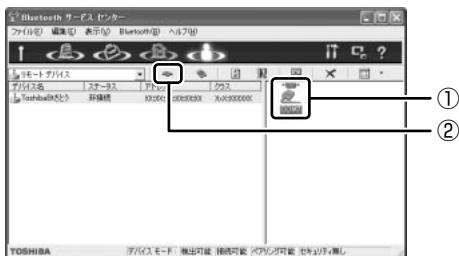


検出の結果は、環境、リモートデバイスの状態によって異なります。

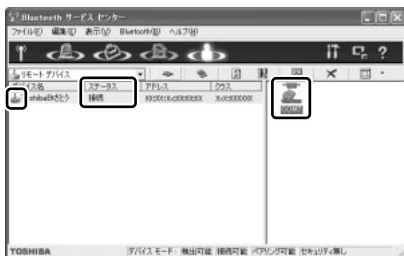
4 リンクを確立する

リンクの確立とは、お互いに目的のサービスをサポートしているかデバイスが確認し合うことです。リンクを確立すると、通信できるようになります。

- 1 接続するリモートデバイスの提供するサービスをクリックし①、[接続] ボタン () をクリックする②



リンクが確立すると、選択したリモートデバイスの「ステータス」が「接続」に変わり、サービスのアイコンが接続状態に変わります。

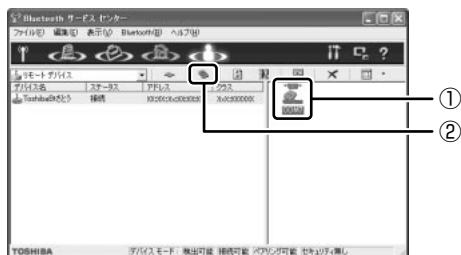


リモートデバイスと通信を行うことができます。

3 Bluetooth 通信を切断する

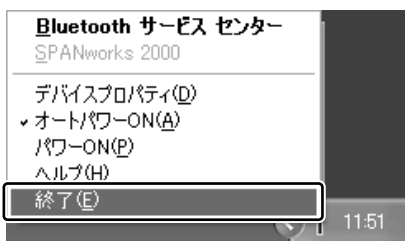
通信をやめるときは、次の操作を行います。

- 1 接続しているリモートデバイスのサービスアイコンをクリックし①、
「切断」ボタン（）をクリックする②



4 Bluetooth 東芝ユーティリティを終了する

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [終了] をクリックする



[Bluetooth Manager] 画面が表示されます。



- 3 メッセージを確認し、[はい] ボタンをクリックする

ヘルプの起動

【 クイックスタートガイド 】

『クイックスタートガイド』では、Bluetooth の基本的な使用方法について説明しています。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [クイックスタートガイド] をクリックする

【 Bluetooth User's Guide 】

『Bluetooth User's Guide』では、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」について説明しています。

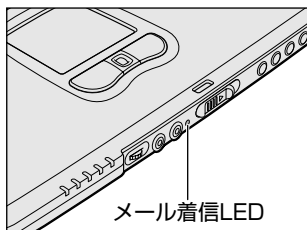
- 1 「Bluetooth Manager」を起動する
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする



「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の問い合わせ
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 新着メールをLEDで確認する

メールソフトを起動しなくても、設定した日時に自動的に Windows を起動して新着メールが届いているかどうかチェックできます。これを新着メールチェック機能といいます。



新着メールが届いていると、メール着信  LED が緑色に点灯します。

新着メールチェック機能を使用するには、あらかじめ設定が必要です。

新着メールチェックを行うには、電話料金およびプロバイダへの接続料金がかかります。

【新着メールチェック機能を使用できる状態】

新着メールチェック機能を使用するときは、必ず AC アダプタを使用し、本製品と電話回線をモジュラーケーブルで接続してください。

新着メールチェック機能はパソコンが次の状態のときに使用できます。

- 電源が入っているとき
- スタンバイ機能を実行しているとき
- 休止状態のとき

スタンバイ機能を実行中や休止状態にしているときは、設定した時間にパソコンが自動的に起動し、新着メールをチェックします。

新着メールチェック機能は、メールソフトの設定が完了している場合に使用できます。メールソフトの設定については、契約しているプロバイダからの資料を確認してください。

1 新着メールチェックの設定をする

新着メールチェック機能を使用するために必要な、各種設定について説明します。

1 Windowsログインパスワードを設定する

新着メールチェック機能を設定するには、Windows のログインパスワードの入力が必要です。あらかじめ Windows のログインパスワードを設定しておいてください。



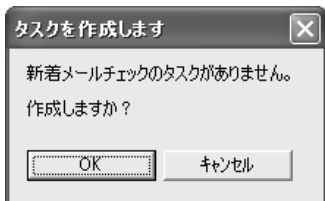
参照 Windows のログインパスワードについて
『基本をマスター 4章 1 Windows ログインパスワード』

2 [メール]アイコンを通知領域に表示する(新着メールチェック機能を開始する)

新着メールチェック機能は、「メール着信ユーティリティ」で設定します。

「メール着信ユーティリティ」は次の手順で起動します。

- 1 [コントロールパネル]を開き、[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする
- 2 [☒ 新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする



この操作を初めて行った場合、[タスクを作成します] 画面が表示されます。

次の手順を行ってください。

- ① 表示される内容を確認して、[OK] ボタンをクリックする
[アカウント パスワードを設定してください] 画面が表示されます。
- ② [パスワード] と [パスワード確認入力] の2カ所に、Windows のログオンパスワードを入力する
Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、「メール着信ユーティリティ」を終了してください。Windows のログオンパスワードを設定したうえで、もう1度「メール着信ユーティリティ」を起動してください。
- ③ [OK] ボタンをクリックする
[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。

- 3 [基本設定] タブで [実行する (指定された時刻に新着メールのチェックを行う)] をチェックする (☒)

- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

- 5 [基本設定] タブで [コンピュータ起動時に常駐する] をチェックする (☒)

チェックしておくとパソコン起動時に自動的に [メール] アイコン (☒) が通知領域に表示され、新着メールチェック機能が開始できるので便利です。

- 6 [OK] ボタンをクリックする

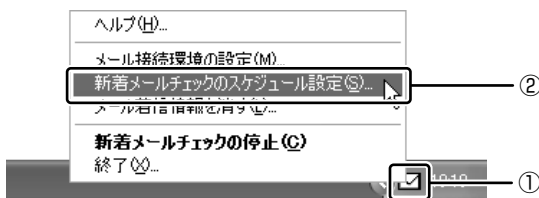
通知領域に [メール] アイコン (☒) が表示されます。

続けて新着メールチェックのスケジュールを設定してください。

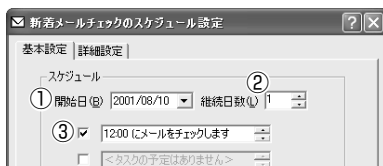
3 新着メールチェックのスケジュールを設定する

新着メールチェックを開始する日や時間を設定します。

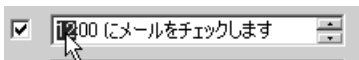
- 1 通知領域の【メール】アイコン（）を右クリックし①、表示されたメニューから【新着メールチェックのスケジュール設定】をクリックする②



- 2 【基本設定】タブで【スケジュール】を設定する



- ① 【開始日】でチェックを開始する日を設定する
▼ ボタンを押すとカレンダーが表示されますので、開始したい日をクリックしてください。
- ② 【継続日数】でチェックを続ける期間を設定する
最大30日まで設定できます。
- ③ 何時に新着メールチェックを行うか設定する
1日に最大3回まで設定できます。チェックしたい回数だけチェックボックスをチェックします（☒）。
時間を設定するには、設定したい【時間】【分】にポインタをあわせてクリックします。数字が反転表示しますので、ボタンで設定します。



- 3 【詳細設定】タブで【タスクの実行時にスリープを解除する】と【レジューム後ハイバネーションする】をチェックする

スタンバイ機能を実行中、または休止状態のときに新着メールチェック機能を使用するときにチェックします。

【レジューム後ハイバネーションする】をチェックすると、新着メールチェック後に、自動的に休止状態になります。

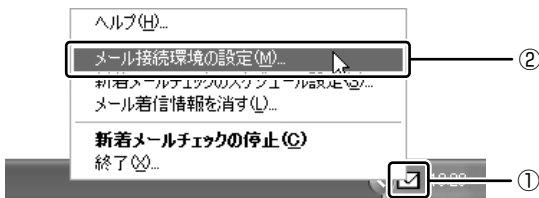
4 [OK] ボタンをクリックする

4 新着メールチェックの接続環境を設定する

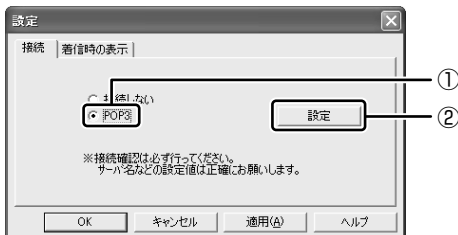
初めて新着メールチェック機能を使用するときは、メールソフトの接続環境の設定が必要です。

新着メールチェック機能は新着メールの有無だけを確認できます。メールの内容を確認することはできません。メールの内容を確認するには、使用しているメールソフトで送受信を行う必要があります。

- 1 通知領域の【メール】アイコン () を右クリックし①、表示されたメニューから【メール接続環境の設定】をクリックする②



- 2 【接続】タブで【POP3】をチェックし①、【設定】ボタンをクリックする②



- 3 必要な項目を入力する



プロバイダから指定されている
[サーバ名] [ユーザ名] [パスワード]
を入力してください。

- 4 [OK] ボタンをクリックする

- 5 【設定】画面で【OK】ボタンをクリックする

5 インターネットへの接続の設定

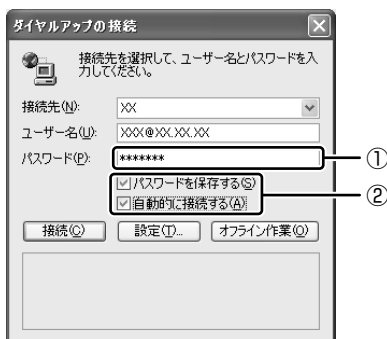
- 1 AC アダプタとモジュラーケーブルを接続する
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 3 [インターネットオプション] をクリックする
[インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 [接続] タブで [通常の接続でダイヤルする] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 Internet Explorer を起動する

参照 → Internet Explorer の起動方法

『基本をマスター 2 章 1 Internet Explorer について』

参照 → Internet 接続について『まずはこれから インターネットに接続しよう』

- 6 [ダイヤルアップの接続] 画面で、[パスワード] にパスワードを入力し①、[パスワードを保存する] と [自動的に接続する] をチェックする② (☒)



- 7 [接続] ボタンをクリックする

1 度インターネットに接続して、設定を保存します。[キャンセル] ボタンや [閉じる] ボタン (☒) をクリックすると設定は保存されません。インターネットに接続されると、[ダイヤルアップの接続] 画面が消えます。

- 8 インターネットへ接続を続ける必要がない場合、Internet Explorer の [閉じる] ボタン (☒) をクリックする

- 9 [今すぐ切断する] をクリックする
インターネットへの接続が終了します。

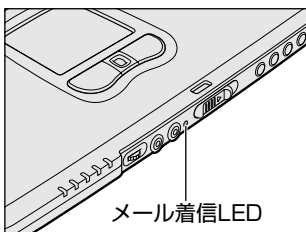
6 パソコンを起動せずに新着メールチェックをする

パソコンが起動していないときに、新着メールチェック機能を使うには、スタンバイを実行するか、休止状態にしてください。

参照 → スタンバイの実行、休止状態について
「5 章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

2 新着メールを確認する

設定したスケジュールに従って、新着メールチェックが行われます。



新着メールがあると、メール着信 ≡ LED が緑色に点灯します。

1 メール着信 ≡ LED を消す

メールソフトを起動してメールの内容を確認した場合、新着メールをすべて既読にしてもメール着信 ≡ LED は消えません。この場合、次の方法でメール着信 ≡ LED を消してください。

- 1 通知領域の【メール】アイコン（）を右クリックし、表示されるメニューから【メール着信情報を消す】をクリックする
メール着信 ≡ LED が消えます。

3 新着メールチェックを停止する

1 新着メールチェック機能を一時停止する

- 1 通知領域の【メール】アイコン（）を右クリックし、表示されるメニューから【新着メールチェックの停止】をクリックする
アイコンが（）になり、新着メールチェック機能を一時的に停止します。

2 新着メールチェック機能を再開する

- 1 通知領域の「メール」アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから「新着メールチェックの開始」をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、「OK」ボタンをクリックする
アイコンが () に変わり、設定したスケジュールに従って新着メールチェックを再開します。

3 新着メールチェック機能を終了する

- 1 通知領域の「メール」アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから「終了」をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、「OK」ボタンをクリックする
アイコンの表示が消えます。

この操作を行ったあと、再び新着メールチェック機能を使用したいときは、「本節 ①-2 「メール」アイコンを通知領域に表示する（新着メールチェック機能を開始する）」を確認してください。

4 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年10月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用するすると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

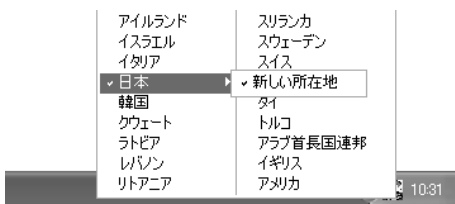
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域の一覧が表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

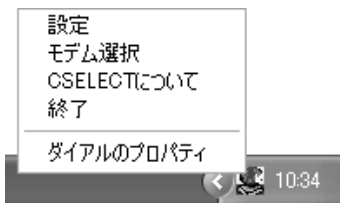
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【 設定 】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【 モデム選択 】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【 ダイヤルのプロパティ 】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。プリンタやスキャナ、外付けハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けたことや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 118
 - 2 PC カードを接続する 120
 - 3 USB 対応機器を接続する 123
 - 4 プリンタを接続する 124
 - 5 テレビを接続する 126
 - 6 CRT ディスプレイを接続する 130
 - 7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 132
 - 8 その他の機器を接続する 134
 - 9 メモリを増設する 138

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ（本製品では内蔵）
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

 参照 周辺機器の接続場所は「1 章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

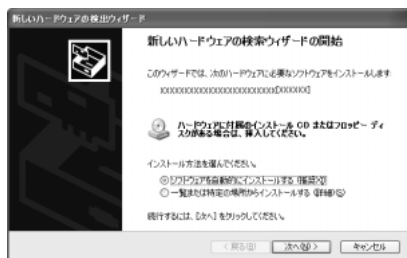
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

「ハードウェアの追加ウィザード」を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

「ハードウェアの追加ウィザード」は、次のように起動します。

- ① 「コントロールパネル」を開き、「プリンタとその他のハードウェア」をクリックする
- ② 「関連項目」の「ハードウェアの追加」をクリックする

2 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カード^{ピーシー}を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード ● SCSI カード ● 無線 LAN カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1 PC カードを使う前に

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用スロット：1（上側）	TYPE II
使用スロット：0（下側）	TYPE II / III

注意

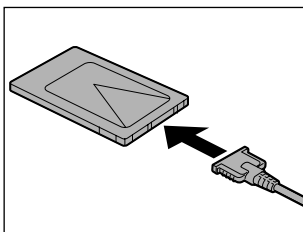
- ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

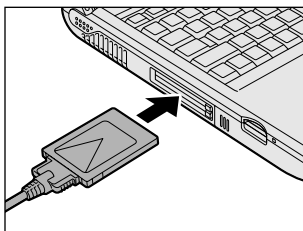
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なきに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

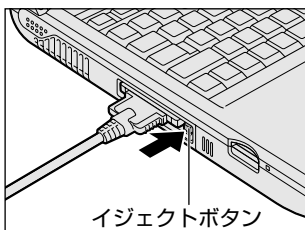
お願い

取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

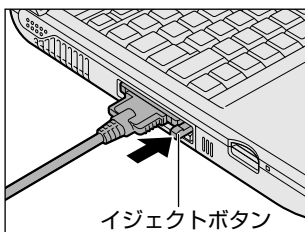
- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



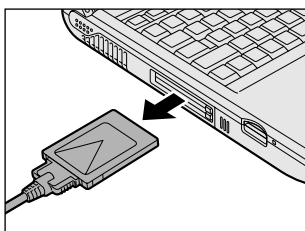
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう 1 度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

3 USB 対応機器を接続する

ユーザー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

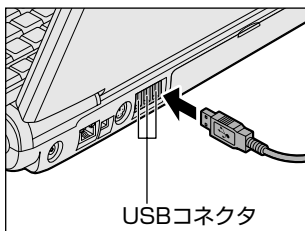
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4 プリンタを接続する

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続すると、印刷ができます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定についての詳細は『プリンタに付属の説明書』を確認してください。

 参照 USB 対応機器について「本章 3 USB 対応機器を接続する」

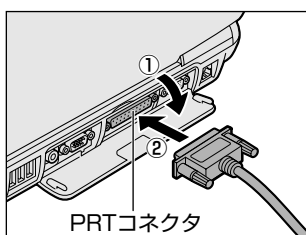
1 プリンタの接続と設定

プリンタの取り付け／取りはずしと、設定方法について説明します。

1 取り付け

PRT コネクタに接続する場合、プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、プリンタケーブルのプラグを PRT コネクタに差し込む②



- 2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む
プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

2 プリンタの設定

【ドライバをインストールする】

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると「プリンタの追加ウィザード」画面が表示されます。画面に従って操作してください。

プラグアンドプレイに対応していない場合は「プリンタの追加ウィザード」を起動するか、『プリンタに付属の説明書』を読んで、インストールを行ってください。

〔プリンタの追加ウィザード〕は、次のように起動します。

- ①〔コントロールパネル〕を開き、〔プリンタとその他のハードウェア〕をクリックする
- ②〔プリンタを追加する〕をクリックする

【プリンタポートモードの設定】

使用するプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

- 1 〔コントロールパネル〕を開き、〔 プリンタとその他のハードウェア〕をクリックする
- 2 〔 東芝HW セットアップ〕をクリックする
- 3 〔プリンタ〕タブの〔プリンタポートモード〕で、使用するプリンタに合ったモードに設定する
 - ECP（標準値）.....ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。
 - 双方向双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。

3 取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く
使用しているプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

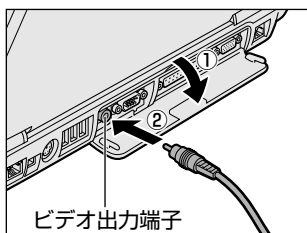
5 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

市販のビデオケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Video や Video-CD などを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

【 方法 1—画面のプロパティで設定する 】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

4 [nView] タブで次のいずれかに設定する



●内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [デジタル ディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

●内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2: アナログディスプレイ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ④ [適用] ボタンをクリックする
- ⑤ もう 1 度 [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑥ テレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑦ [OK] ボタンをクリックする

●テレビだけに表示

- ① [nView] モードで [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

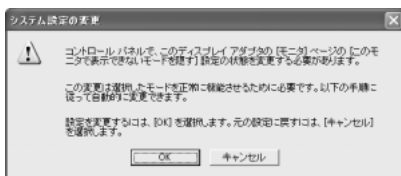
5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

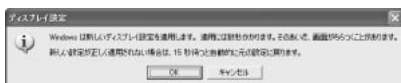
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

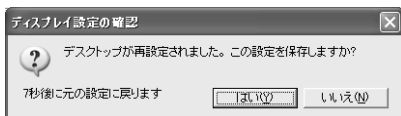
● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



■ 方法 2— (Fn) + (F5) キーを使う ■

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを 3 秒間押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。これは最初に (Fn) + (F5) キーを押したときのみ有効です。



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
[画面のプロパティ] で [ディファレント リフレッシュ レート] をチェック () したときだけ有効になります。
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

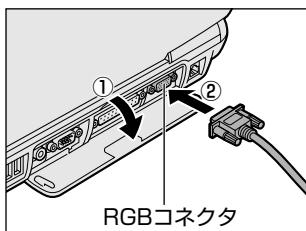
6 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を参考に [nView] タブの [デバイス設定] で「アナログ ディスプレイ」を選択してください。

 参照 テレビ接続について「本章 5-2 テレビに表示する」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

 **参照** ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ

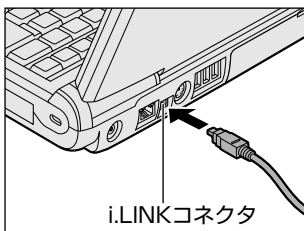
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 機器の使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

※デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

8 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1 RS-232C 対応機器

COMMS コネクタには、RS-232C 対応機器を接続できます。

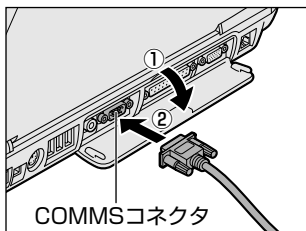
パソコンの電源を切ってから接続してください。

RS-232C 対応機器には次のようなものがあります。

- モデム
- マウス
- テンキー
- スキャナ
- トラックボール

1 接続

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグを COMMS コネクタに差し込む②



取りはずすときは、COMMS コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2 PS/2 対応機器

PS/2 コネクタには、PS/2 対応機器を接続できます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

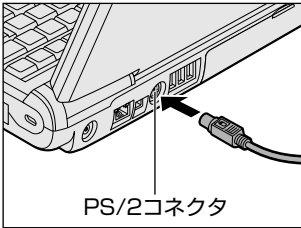
PS/2 対応機器には次のようなものがあります。

- キーボード
- マウス
- テンキー
- トラックボール

※ PS/2 マウスを取り付けると、タッチパッドが使用できなくなります。

1 接続

1 ケーブルのプラグを PS/2 コネクタに差し込む



取りはずすときは、PS/2 コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

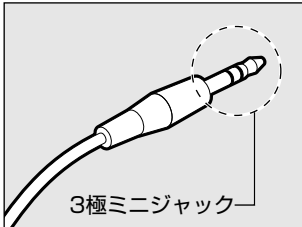
3 マイクロホン

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

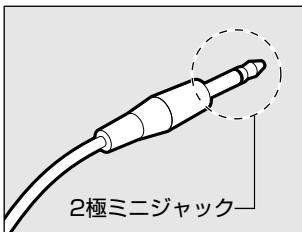
参照 サウンド機能について「1 章 7 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは 3.5mm ϕ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm ϕ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

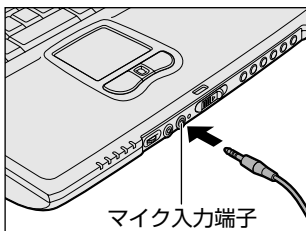
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

参照 アプリケーションの問い合わせ先について

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。

4 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・ パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

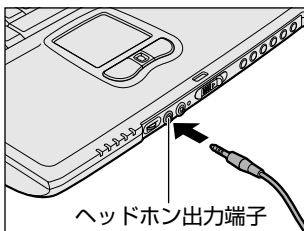
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調節してください。

マスタ音量は、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。

9 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大512MBまでです。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。
- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

お願い

- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビープ音）が鳴ります。スロットAに取り付けた場合は「ピー・ピッ」と、スロットBに取り付けた場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。また、2つのスロットを合わせて512MBを超える容量のメモリを取り付けた場合は、「ピー・ピッ・ピッ・ピッ・ピッ」と鳴ります。

静電気について

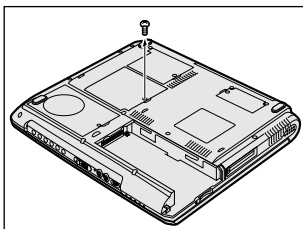
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

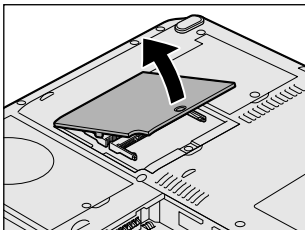
- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーバックを取りはずす

参照 ➡ バッテリーバックについて「5章 1-③ バッテリーバックを交換する」

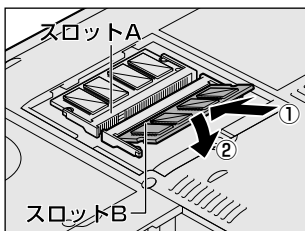
- 4 増設メモリカバーのネジをはずす



5 増設メモリカバーをはずす

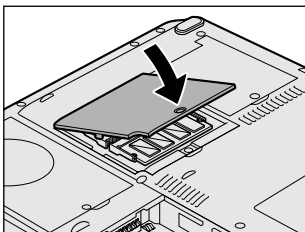


6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



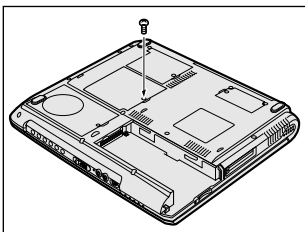
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

7 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順4ではずしたネジでとめる



9 バッテリーパックを取り付ける

参照▶ バッテリーパックについて「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

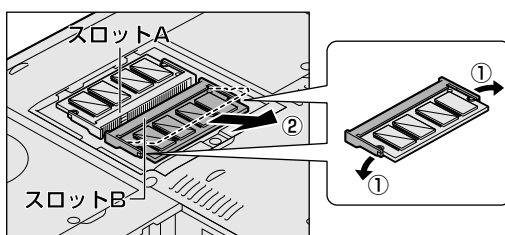
参照▶ メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリーパックの交換「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジをはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

- 7 増設メモリカバーをはめる
- 8 手順4 ではずしたネジでとめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

参照▶ バッテリーパックの交換「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する



「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

5 章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 144
 - 2 省電力の設定をする 151
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 156

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

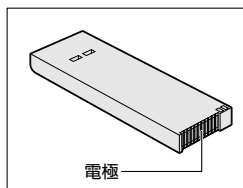
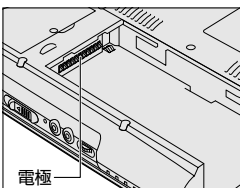
『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 警告

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー (TOSHIBA バッテリーパック:PABAS018) をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、AC アダプタを接続して充電してください。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

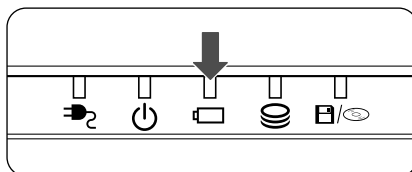


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

AC アダプタを使用している場合、Battery LED が緑色に点灯すれば充電完了です。



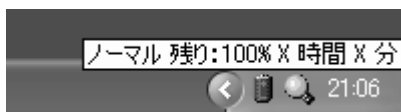
バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・ バッテリーが接続されていない ・ AC アダプタが接続されていない ・ バッテリー異常

2 通知領域の[省電力]アイコンで確認する

通知領域の[省電力]アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



参照 → 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 参照 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える
購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が緑色に点灯)	8 時間以上
電源 OFF (Power  LED が消灯)	充電しない

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることにはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN ➡ LED が緑色に点灯して Battery ❶ LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらず充電されます。

2 Battery ❶ LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery ❶ LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN ➡ LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 充電完了までの時間 】

状態	充電時間
電源 ON	約 4 ～ 11 時間以上
電源 OFF	約 2 ～ 3 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなることがあります。

【使用できる時間】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。
次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	動作時間
JEITA 測定法 1.0	約 2.3 時間

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていき、
放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約 1 ヶ月

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1 ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1 ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5 分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery  LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ DC IN LED が緑色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN への LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照▶ 「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
参照▶ 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する 参照▶ 「本章 2 省電力の設定をする」

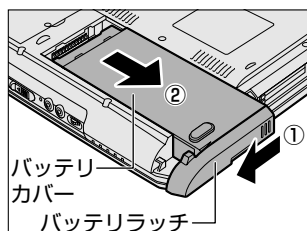
3 バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

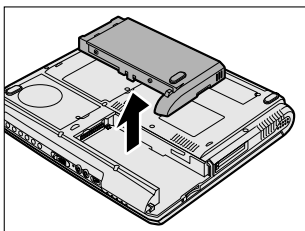
バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

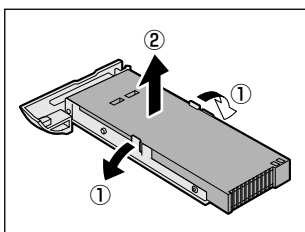
- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- 3 [電源を切る] をクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリーラッチを横に押し①、バッテリーカバーをスライドさせる②



7 バッテリカバーごと、バッテリーパックを取り出す



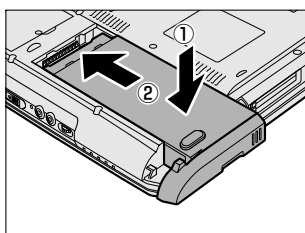
8 バッテリカバーからバッテリーパックを取り出す



バッテリーカバーのツメを左右に広げ①、
バッテリーパックを取りはずします②。

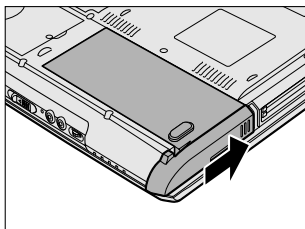
9 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける

10 バッテリラッチが左側にあることを確認し、バッテリーパックをコネクタの位置に合わせ①、静かに差し込む②



注意して差し込んでください。

11 バッテリラッチをスライドさせ、バッテリーパックを固定する



2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

1 [コントロールパネル] を開き、[ パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

2 [ 東芝省電力] をクリックする

[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



【電源に接続】【バッテリーを使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] はACアダプタ接続／バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続]（AC アダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリー使用中]（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD 再生	性能と消費電力を両立して DVD の再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【 省電力モードの作成 】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【 省電力モードの削除 】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている 6 つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

「タスクバーに省電力モードの状態を表示する」をチェックする（☒）と現在の省電力モードを示す省電力アイコン（）が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、「休止状態をサポートする」をチェックしてください。

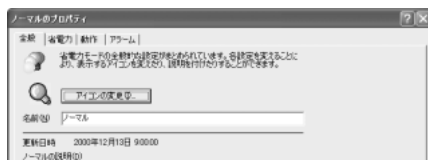


▶ 参照 休止状態について「本項 4- 【動作】タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 【2】の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。
Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【入力を求める】

[終了オプション] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（☒）と、Windows のパスワードを設定している場合には、復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

【アラーム】タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリー使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

5 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。



複数のユーザで使用する場合は
『基本をマスター 4 章 Windows のユーザ設定』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、画面右上の をクリックする

ポインタが に変わります。

- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
スタンバイまたは休止状態を実行するには、あらかじめ設定しておく必要があります。

参照 ▶ スタンバイ、休止状態について「本章 2 省電力の設定をする」

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・ スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・ スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを 5 秒間押して一旦電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailure で立ち上がります）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入ると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【方法 1ー [スタート] メニューから実行する】

- 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする

④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

【方法2— (Fn) + (F4) キーを使う】

1 休止状態を有効に設定する

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

② [東芝省電力] をクリックする

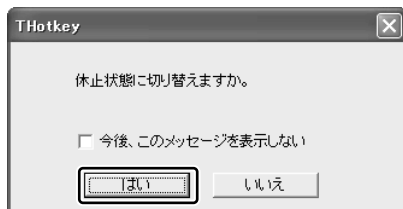
③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする

④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 (Fn) + (F4) キーを押す

3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック (☒) して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

〔スタート〕メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [何もしない] [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

-
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] [何もしない] のいずれかを選択する
 - ⑤ [OK] ボタンをクリックする
 - ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。

6 章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを使う前に 162
 - 2 アプリケーションを追加（インストール）する 164
 - 3 アプリケーションを削除（アンインストール）する 165

1 アプリケーションを使う前に

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで利用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。



参照 複数のユーザで使用する場合について

『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○ * 1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○ * 2
東芝コントロール (メール着信機能)			○	
東芝コントロール (ボタン機能)	○	○	○	
東芝コンソール	○		○	
DVDfunSTUDIO		○		○ * 2
Drag'n Drop CD	○		○ * 3	○
携快電話 6in	○			○
家庭の医学	○		○	○
LaLaVoice	○ * 4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)	○			
MotionDV STUDIO		○		○ * 2
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス W for TOSHIBA		○	○	○ * 2
駅すばあと	○		○	
筆ぐるめ		○		○ * 2
Norton Internet Security2002	○		○	○
東芝 PC 診断ツール		○		○ * 2
東芝 HW セットアップ	○			— * 5

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
東芝省電力ユーティリティ		○	○	— *5
Fn-esse	○		○	○
Bluetooth 東芝ユーティリティ		○		○ *2
いきなりインターネット (infoPepper)		○		○ *2
AOL	○			○
DION かんたん設定ツール		○	○	○ *2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○ *2
ODN ダイヤルアップ スターターキット	○		○ *6	○
DreamNet		○	○	
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
TTNet	○		○	○

* 1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。

* 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。

* 3 DVD-R、CD-R などへの書き込みは、複数のユーザが同時に行うことはできません。

* 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。

* 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。

* 6 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

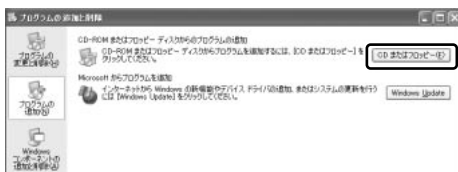
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

【プログラムの追加と削除】からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で【プログラムの追加と削除】を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 【コントロールパネル】を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 【プログラムの追加】 ボタン () をクリックする
- 4 【CD または フロッピー】 ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCD-ROMから、再インストールして使用することができます。

参照 → 再インストールについて『困ったときは 4 章 再セットアップ』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル]を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 168
 - 2 東芝 HW セットアップを使う 169
 - 3 BIOS セットアップを使う 175

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」などがあります。

 **参照** 東芝省電力ユーティリティについて「5 章 2 省電力の設定にする」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。
BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップを使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。パスワード、パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 東芝 HW セットアップの起動と使用

東芝 HW セットアップの操作について、説明します。

1 起動方法

- 1 【コントロールパネル】を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする

2 使用方法

■【全般】タブ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。



【標準設定】

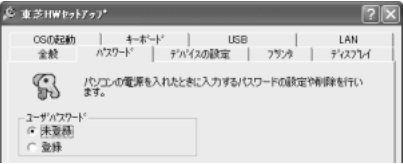
このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の【パスワード】タブ以外のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。



【パスワードの登録】

- ① [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない (入力するときに [Shift] キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン) 、 & (アンド) 、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン) ¥ キーや  キーを押すと ¥ が入力されます。	

- ③ [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
登録したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。

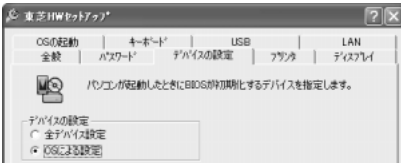
【パスワードの削除】

- ① [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

■ 【デバイスの設定】 タブ ■

パソコンが起動したときに BIOS セットアップが初期化する装置を指定します。

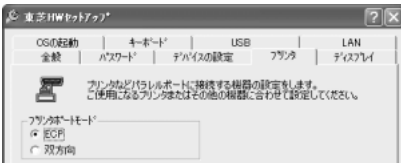


【デバイスの設定】

- 全デバイス設定
すべての装置を初期化します。
- OS による設定
システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

■ 【プリンタ】 タブ ■

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。使用するプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。



【プリンタポートモード】

- ECP

ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。

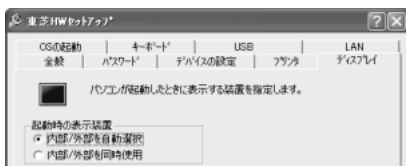
- 双方向

双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用する場合に設定します。

➡ 参照 プリンタの設定「4 章 4 プリンタを接続する」

■ 【ディスプレイ】 タブ ■

表示する装置を選択します。



【起動時の表示装置】

- 内部／外部を自動選択

システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。

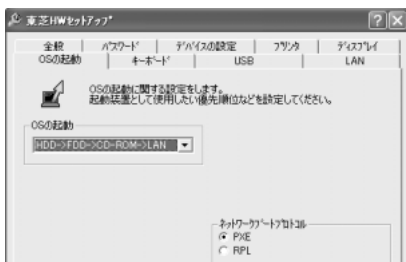
- 内部／外部を同時使用

外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。

➡ 参照 CRT ディスプレイの接続「4 章 6 CRT ディスプレイを接続する」

■ 【OS の起動】 タブ ■

パソコンの起動について設定します。



【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

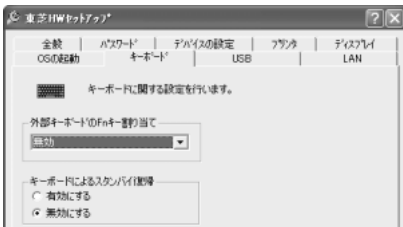
通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）
PXE プロトコルに設定します。
- RPL
RPL プロトコルに設定します。

■ 【キーボード】 タブ ■



【外部キーボードの(Fn)キー割り当て】

PS/2 コネクタに接続した外部キーボードで、(Fn) キーの代わりに使用できるキーを設定します。

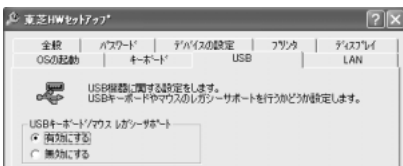
(Fn) キーの割り当てをしない場合、[無効] に設定します。

【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ 【USB】 タブ ■

USB 対応機器について設定します。



【 USB キーボード／マウス レガシーサポート 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする

レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。



【 LAN のウェイクアップ 】

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

【 内蔵 LAN 】

内蔵 LAN を使用するかどうかを設定します。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝 HW セットアップ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOSセットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。BIOSセットアップとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOSセットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動

1 (Esc)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

 パスワードについて「本章 2 東芝HWセットアップを使う」、「本節 ③-2 PASSWORD-パスワードの登録／削除する」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (Fn) + (→) キーを押す

本製品では、(Fn) + (→) が (End) キーの機能を持ちます。

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (Esc) キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	(↑)、(↓)、(←)、(→) 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(Space) または (BackSpace)
画面を切り替える	(Fn) + (↓) または (Fn) + (↑) 本製品では、(Fn) + (↓) が (PgDn) キー、(Fn) + (↑) が (PgUp) キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	(Fn) + (←) 本製品では、(Fn) + (←) が (Home) キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode ●Write Policy

2) BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の2つの画面があります。

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X.XX

①	MEMORY Total = XXXXXKB	OTHERS Power-up Mode = Boot CPU Cache = Enabled Level 2 Cache = Enabled	⑥
②	PASSWORD Not Registered		
③	BATTERY Battery Save Mode = Full Power	Auto Power On = Disabled Panel Power On/Off *1 = Disabled	
④	PERIPHERAL Internal Pointing Device = Enabled Ext Keyboard "Fn" = Disabled Parallel Port Mode = ECP Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)	BOOT PRIORITY Boot Priority = HDD→FDD→CD-ROM→LAN Network Boot Protocol = PXE	⑦
⑤	DISPLAY Power On Display = Auto-Selected LCD Display Stretch = Enabled TV Type = NTSC(JAPAN)		

↑↓++ : Select items **Space,BkSp** : Change values **PgDn,PgUp** : Change pages
Esc : Exit without saving **Home** : Set default values **End** : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X.XX

⑧	CONFIGURATION Device Config. = Setup by OS	PC CARD Controller Mode = Auto-Selected	⑫
⑨	I/O PORTS Serial = COM1(3F8H/IRQ4) Parallel = LPT(378H/IRQ7/CH3)	DRIVES I/O HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14) CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)	⑬
⑩	PCI BUS = IRQ10, IRQ11	FLOPPY DISK I/O Floppy Disk = (3F2H/IRQ6/CH2)	⑭
⑪	LEGACY EMULATION USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled	PCI LAN Built-in LAN = Enabled	⑮

↑↓++ : Select items **Space,BkSp** : Change values **PgDn,PgUp** : Change pages
Esc : Exit without saving **Home** : Set default values **End** : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

* 1 Panel Power On/Off は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。

参照 → 設定項目の詳細について 「本節 ③ 設定項目」

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。

ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 PASSWORD—パスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

【 Not Registered 】

パスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

パスワードが設定されているときに表示されます。

■ パスワードの登録 ■

パスワードの設定は「東芝 HW セットアップ」で行うことを推奨します。

 参照 東芝 HW セットアップでのパスワード設定
「本章 2-①-2- [パスワード] タブ」

■ キーフロッピーディスクの作成 ■

キーフロッピーディスクとは、パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。BIOS セットアップで作成してください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

参照 ➡ パスワードの削除方法「本項 パスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝HWセットアップ」の場合と同様です。

参照 ➡ 東芝HWセットアップからのパスワード登録
「本章 2-①-2- [パスワード] タブ」

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 (Enter)キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 (Enter)キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、(Fn)+(→)キーを押す

本製品では、(Fn)+(→)が(End)キーの機能を持ちます。

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)

The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして(Y)キーを押す

作成しないのでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに(Y)キーを押します。

BIOS セットアップの画面に戻るには(N)キーを押します。

手順9はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

 キーフロッピーディスクの使いかた「本項 パスワードを忘れてしまった場合」

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

- ① セットされているフロッピーディスクが 2HD の場合は①キーを、2DD の場合は②キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

- ② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

■ パスワードの削除 ■

「東芝 HW セットアップ」からの削除については「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」を確認してください。

1 セットアッププログラムを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、

(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに * が表示されます。

4 (Enter)キーを押す

パスワードが削除されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ピープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。

手順 3 からやり直してください。

■ パスワードを忘れてしまった場合 ■

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**(Enter)**キーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

- 2 パスワードを再設定する場合は、**(Y)**キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 キーフロッピーディスクの作成」の手順2以降を行ってください。再設定後、システムが再起動します。

パスワードを再設定しない場合は、**(N)**キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk, then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

■ パスワードの変更 ■

パスワードを削除してから、登録を行ってください。

 参照 パスワードの削除と登録について

「本項 パスワードの削除」、「本章 2-①-2- 「パスワード」 タブ」

■ パスワードの入力 ■

パスワードが設定されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 1 設定したとおりにパスワードを入力し、Enter キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

 参照 パスワードを忘れた場合「本項 パスワードを忘れてしまった場合」

インスタントセキュリティ状態にして電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはパスワードを入力してください。インスタントセキュリティ状態にしたときに、パスワードを忘れてしまった場合、キーフロッピーディスクは使用できません。

3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)	●User Setting (設定例)	●Low Power
Processing Speed = High CPU Sleep Mode = Enabled Display Auto Off = 30Min. HDD Auto Off = 30Min. System Auto Off = Disabled LCD Brightness = Super-Bright Cooling Method = Maximum Performance	Processing Speed = Low CPU Sleep Mode = Enabled Display Auto Off = 03Min. HDD Auto Off = 03Min. System Auto Off = 30Min. LCD Brightness = Semi-Bright Cooling Method = Battery Optimized	Processing Speed = Low CPU Sleep Mode = Enabled Display Auto Off = 03Min. HDD Auto Off = 03Min. System Auto Off = 30Min. LCD Brightness = Bright Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、  キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

- Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

- HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- System Auto Off (システム自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する

- ・ Bright 高輝度に設定する

- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する

- Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。

- ・ Performance CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動し CPU に風を送り、冷やします。

- ・ Battery Optimized CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドの使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

【 Ext Keyboard "Fn" 】

外部キーボードの(Fn)キーの割り当てをします。

- ・ Disabled (標準値) .. (Fn)キーの代替えキー割り当てをしない
- ・ Enabled 次のキーを(Fn)キーの代替えキーとして割り当てる
 - ・ Left Ctrl + Left Alt ・ Right Ctrl + Right Alt
 - ・ Left Alt + Left Shift ・ Right Alt + Right Shift
 - ・ Left Alt + CapsLock

【 Parallel Port Mode 】

パラレルポートモードの設定をします。

Windows で使用する場合、標準値のままで使用できます。

- ・ ECP (標準値) ECP 対応に設定する
大半のプリンタでは、ECP に設定します。
- ・ Std.Bi-Direct. 双方向に設定する
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定します。

メモ

Windows を使用している場合は「東芝 HW セットアップ」の設定が有効になり、「Parallel Port Mode」の設定は無効になります。

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

5 DISPLAY—表示装置の設定をする

SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

【 Power On Display 】

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
- ・ Simultaneous 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する

【 LCD Display Stretch 】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Enabled (標準値) ... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (JAPAN) (標準値) ... 日本仕様の TV 受信機
- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機

6 OTHERS—その他の設定をする

【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

- **Write Policy**

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back (標準値) ... 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動し「Password=」と表示されます。パスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

インスタントセキュリティとは、画面の表示をオフにし、キー入力 (タッチパッド、マウスを含む) もできない状態のことです。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは(↑)(↓)キーで行います。

- Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

- Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

- Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能は PC カードタイプのモデムで使用できます。ただし、スタンバイ状態時のみ実行できます。

- ・ Disabled (標準値) ... リングインジケータ機能を使用しない
- ・ Enabled リングインジケータ機能を使用する

- Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) . Wake up on LAN 機能を使用しない

【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... パネルスイッチ機能を使用しない

7 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN （標準値）
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

電源を入れたときや再起動時に、次のキーを押し続けると、一時的に設定内容と違うドライブから起動できます。

これらのキーによって設定は変更されません。

Ⓒキー	マルチドライブから起動
Ⓐキー	内蔵 LAN から起動
Ⓕキー	フロッピーディスクドライブから起動
Ⓐキー	パソコン本体のハードディスクドライブから起動
Ⓐキー	PC カードタイプ（TYPE II または TYPE III）のハードディスク（別売り）から起動
Ⓓキー	通常の設定された起動ドライブから起動

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE（標準値） PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS（標準値）... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
この場合、「PC カード」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices..... すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内の Controller Mode の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。



「PC CARD」について

「本項 12 PC CARD - PC カードのモードを選択する」

9 I/O PORTS(I/Oポート)

【 Serial 】

シリアルポートの割り当てを設定します。

- ・ Not Used..... シリアルポートを割り当てない
 - ・ COM1（標準値）
 - ・ COM2
 - ・ COM3
 - ・ COM4
- } 指定のポートを割り当てる

【 Parallel 】

パラレルポートの割り当てを設定します。

「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● DMA

DMA チャンネルを設定します。

「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

12 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PC カードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) ... プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ Card Bus/16-bit Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない 16-bit PC カードを使用する場合に選択します。

13 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM、PC カードの設定

【 HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

【 PC Card 】

PC カードタイプ (TYPE II または III) のハードディスク (別売り) からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できる PC カードのタイプ (TYPE II または III) のハードディスク (別売り) を PC カードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

14 FLOPPY DISK I/O

【 Floppy Disk 】

フロッピーディスクドライブのアドレス、割り込みレベル、チャンネルの設定を表示します。変更はできません。

15 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) ... 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

付録

本製品について、外形や各インタフェースなどのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 194
 - 2 各インタフェースの仕様 203
 - 3 技術基準適合について 210
 - 4 Bluetooth について 228

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種	DynaBook T6シリーズ	
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB（フラッシュROM）、ACPI 1.0b
	RAM	東芝PC診断ツールを参照
	ビデオRAM	16MB
表示機能	表示装置	15.0型TFT方式カラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	横1024 x 縦768 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー（文字キー、制御キーの合計）
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵（ジョグホイール付き）
補助記憶装置	SDメモ리카ードスロット	1個装備
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵
	ドライブ	DVD-R/-RWドライブ*1 1台内蔵 CD：最大24倍速 CD-R：最大16倍速 CD-RW（マルチスピード）：最大4倍速 High-Speed対応CD-RW：最大10倍速 DVD-ROM：最大8倍速 DVD-R、DVD-RWの読み込み倍速：最大4倍速 DVD-R：等倍速 DVD-RW：等倍速 8cm、12cmのCD対応 マルチセッション
		マルチドライブ*2 1台内蔵 CD：最大24倍速 CD-R：最大24倍速 CD-RW（マルチスピード）：最大4倍速 High-Speed対応CD-RW：最大10倍速 DVD-ROM：最大8倍速 8cm、12cmのCD対応 マルチセッション
	3.5型フロッピーディスクドライブ	1台内蔵 2DDまたは2HDフロッピーディスクを使用 1.44MB、1.2MB（2HD）／720KB（2DD）

インタ フェース	プリンタ	1個装備 (ECP)
	RGB	1個装備
	USB	3個装備
	RS-232C	1個装備 非同期115.2kbpsまで対応 (ハードウェア仕様)
	PS/2	1個装備
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)
	PCカード	1個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 2、またはTYPE III x 1) CardBus対応
	モデム	1個装備
	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	サウンド	マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備
	ビデオ	ビデオ出力 (ライン出力共用) 1個装備 (φ3.5mmミニジャック)
	Bluetooth通信機能	1個装備 Bluetooth Specification Ver.1.1準拠
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V～240V (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーバック Li-Ion 10.8V/4,500mAh
最大消費電力		約75W
使用環境条件		温度：5℃～35℃ 湿度：20%～80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		329 (幅) x 291 (奥行) x 43～49 (高さ) mm
質量		約3.5kg

* 1 DVD-R/-RW ドライブモデルのみ。

* 2 マルチドライブモデルのみ。

【東芝 PC 診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

- 1 **【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【東芝ユーティリティ】 → 【PC 診断ツール】 をクリックする**
- 2 **【基本情報の表示】 ボタンをクリックする**

メモ

「東芝PC診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし【CPU】の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格に準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、別途電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は次のとおりです。

アメリカ合衆国	： 125V
カナダ	： 125V
日本	： 100V

日本では必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

※取得規格は、アメリカ合衆国：UL 規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

【AC アダプタの仕様】

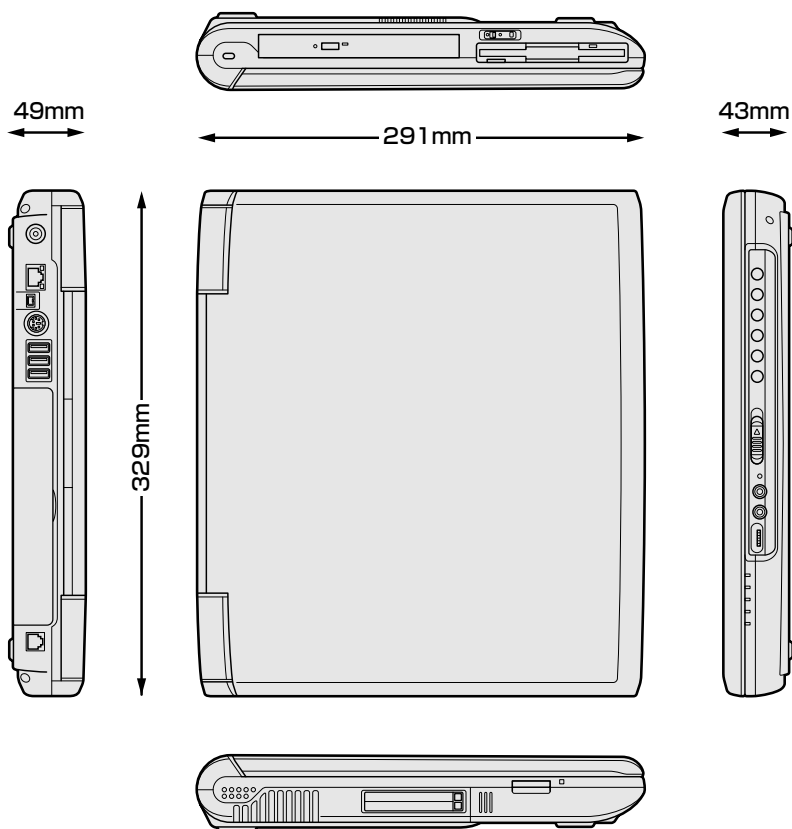
本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力	： AC100～240V、128～168VA、50/60Hz
出力	： 15V、4A

2 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 表示可能色数の詳細について「1 章 5-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色数の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字	8 x 8	16/256K	
0*,1*		40 x 25字	8 x 14	16/256K	
2*,3*		80 x 25字	8 x 14	16/256K	
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
2+,3+		80 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6		640 x 200ドット	8 x 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+		80 x 25字	8(9) x 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	60
E		640 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10		640 x 350ドット	8 x 14	16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	
12		640 x 480ドット	8 x 16	16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480 ドット	—	256/256K	60/75/85 /100
—		800 x 600 ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768 ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024 ドット* ¹	—	256/256K	
—		1600 x 1200 ドット* ¹	—	256/256K	
—		1920 x 1440 ドット* ¹	—	256/256K	60/75
—		2048 x 1536 ドット* ¹	—	256/256K	
—		640 x 480 ドット	—	64K/64K	60/75/85 /100
—		800 x 600 ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768 ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024 ドット* ¹	—	64K/64K	
—		1600 x 1200 ドット* ¹	—	64K/64K	
—		1920 x 1440 ドット* ¹	—	64K/64K	60/75
—		2048 x 1536 ドット* ¹	—	64K/64K	
—		640 x 480 ドット	—	16M/16M	60/75/85 /100
—		800 x 600 ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768 ドット	—	16M/16M	
—		1280 x 1024 ドット* ¹	—	16M/16M	
—		1600 x 1200 ドット* ¹	—	16M/16M	
—		1920 x 1440 ドット* ¹	—	16M/16M	60/75
—		2048 x 1536 ドット* ¹	—	16M/16M	

* 1 : LCD に表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

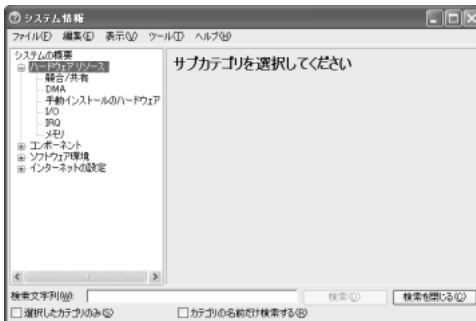
注）1 部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]
I/O ポートマップ : [I/O]
IRQ 使用リソース : [IRQ]
DMA 使用リソース : [DMA]

5 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- モデムボードの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。モデムボードの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。

付
録

お願い

- モデムボードの取り付け、取りはずし、PTTラベルの確認以外の目的で内蔵モデムカバーを開けないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【取り付け】

- ① データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ1本をはずし、カバーを取りはずす
- ⑤ モデムボードのネジ2本を取りはずす
- ⑥ 接続コードをモデムボードに取り付ける

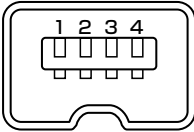
-
- ⑦ モデムボードをパソコン本体に取り付ける
 - ⑧ 手順 5 ではずしたモデムボードのネジ 2 本をとめる
 - ⑨ 手順 4 ではずしたカバーをはめ、ネジ 1 本でとめる
 - ⑩ バッテリパックを取り付ける

【 取りはずし 】

- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
- ④ 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ 1 本をはずし、カバーを取りはずす
PTT ラベルを確認することができます。
- ⑤ モデムボードのネジ 2 本を取りはずす
- ⑥ 接続コードをモデムボードから取りはずす
- ⑦ モデムボードをパソコン本体に取りはずす
- ⑧ 手順 5 ではずしたモデムボードのネジ 2 本をとめる
- ⑨ 手順 4 ではずしたカバーをはめ、ネジ 1 本でとめる
- ⑩ バッテリパックを取り付ける

2 各インタフェースの仕様

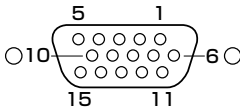
1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストローク受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストローク受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストローク送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストローク送信 (2対の差動信号)	
コネクタ図			
			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

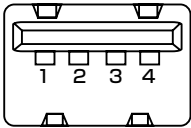
付録

2 RGBインタフェース

ピン番号	信 号 名	意 味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	ID2	モニタID2	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	IDO	モニタID	
12	SDA	SDA通信信号	
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	
コネクタ図			
 高密度D-SUB 3列15ピンメス			

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向（I）：パソコン本体への入力
 信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 USBインタフェース

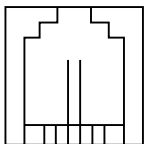
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			
			

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です

信号方向（I）：パソコン本体への入力

信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 モデムインタフェース

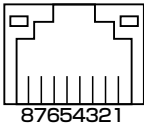
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	－	ノーコンタクト	
2	－	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	－	ノーコンタクト	
6	－	ノーコンタクト	
コネクタ図			
			

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です

信号方向（I）：パソコン本体への入力

信号方向（O）：パソコン本体からの出力

5 LANインタフェース

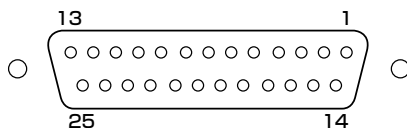
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	O
2	-TX	送信データ (-)	O
3	RX	受信データ (+)	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	
コネクタ図			
			

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

6 PRTインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-STROBE	PD0～7のデータを書き込むための同期出力信号	O
2	PD0	PD0のデータを送信する信号	I/O
3	PD1	PD1のデータを送信する信号	I/O
4	PD2	PD2のデータを送信する信号	I/O
5	PD3	PD3のデータを送信する信号	I/O
6	PD4	PD4のデータを送信する信号	I/O
7	PD5	PD5のデータを送信する信号	I/O
8	PD6	PD6のデータを送信する信号	I/O
9	PD7	PD7のデータを送信する信号	I/O
10	-ACK	-STROBEに対するデータ受信完了信号	I
11	BUSY	データ受信できるかどうかを示すステータス信号	I
12	PE	用紙切れを知らせるステータス信号	I
13	SELECT	セレクト／ディセレクト状態を示すステータス信号	I
14	-AUTFD	自動用紙送り機構用信号	O
15	-ERROR	アラーム状態を示すステータス信号	I
16	-PINT	初期状態に戻す信号	O
17	-SLIN	未使用	O
18	GND	信号グラウンド	
19	GND	信号グラウンド	
20	GND	信号グラウンド	
21	GND	信号グラウンド	
22	GND	信号グラウンド	
23	GND	信号グラウンド	
24	GND	信号グラウンド	
25	GND	信号グラウンド	

コネクタ図



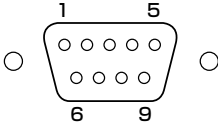
D-SUB 25ピンメス

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I)：パソコン本体への入力

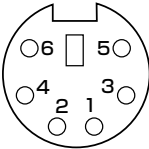
信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

7 COMMSインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CD	受信キャリア検出	I
2	RXD	受信データ	I
3	TXD	送信データ	O
4	DTR	データ端末レディ	O
5	GND	信号グランド	
6	DSR	データセットレディ	I
7	RTS	送信要求	O
8	CTS	送信可	I
9	CI	被呼表示	I
コネクタ図			
 D-SUB 9ピンオス			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

8 PS/2インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	MOUSDT	マウスデータ	I/O
2	EXTKBDT	キーボードデータ	
3	GND	グラウンド	
4	VCC	5V	
5	MOUSCK	マウスクロック	I/O
6	EXTKBCK	キーボードクロック	I/O
コネクタ図			
 ミニDIN 6ピンメス			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



参照 省電力設定について 「5 章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : DynaBook T6 series

Model number : PS141

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ☐ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ☐ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ☐ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ☐ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, PRT connector, COMMS connector, USB connector, PS/2 connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.

9740 Irvine Boulevard

Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PS141* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.
Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A00-0940JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002 年 10 月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。



参照 関連情報は《サイバーサポート》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
 - Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

TEAC CD-RW / DVD-ROM ドライブ DW-224E
(マルチドライブ)
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。

信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

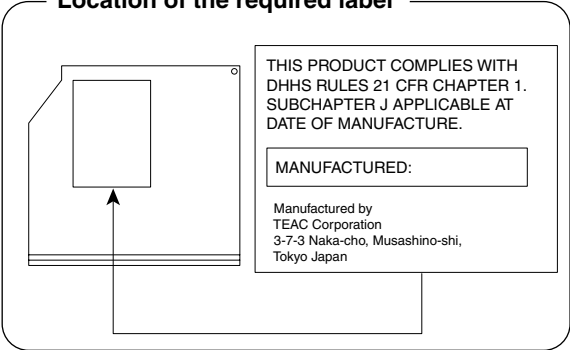
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLÄ. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

付録

Location of the required label



松下 CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA740 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。

レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE
EN CAS D'OUVERTURE.
EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED
ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

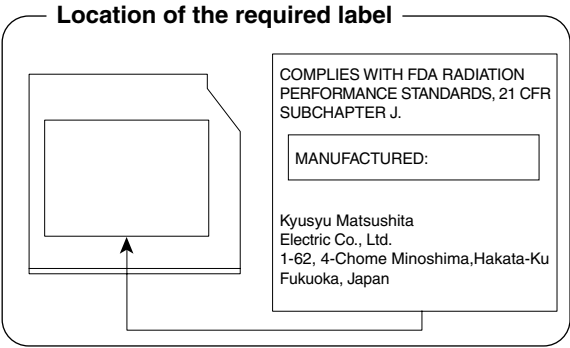
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR
DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR
STRÅLEN.

VARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO !

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET
ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO
SÄTEESEN.



東芝 CD-RW / DVD-ROM ドライブ SD-R2212 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格

EN60825 で “クラス 1 レーザー機器” に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス 1 レーザー製品

DANGER
VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION

RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER
EN CAS D'OUVERTURE EXPOSITION
DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT
SICHTBARE UND UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG WENN ABDECKUNG
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

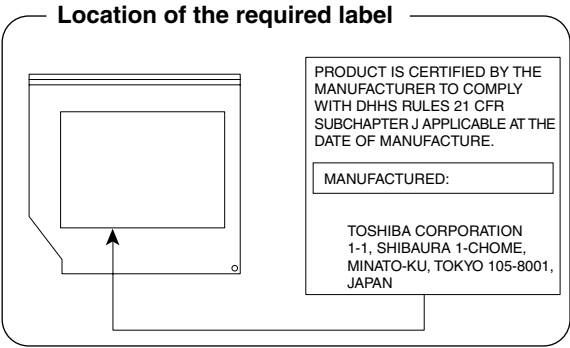
注 意
ここを開くと可視レーザー光及び不可視レーザー光が
出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。

ADVARSEL
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED
ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR
DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR
STRÅLEN.

VARO !
NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET
ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO
SÄTEESEEN.

VARNING
SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.



東芝 DVD-R/-RW ドライブ SD-R6012

(DVD-R/-RW ドライブ)

安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格

EN60825 で “クラス 1 レーザー機器” に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全本性に關する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス 1 レーザー製品

DANGER
VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION

RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER
EN CAS D'OUVERTURE EXPOSITION
DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT
SICHTBARE UND UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG WENN ABDECKUNG
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

注 意
ここを開くと可視レーザー光及び不可視レーザー光が
出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。

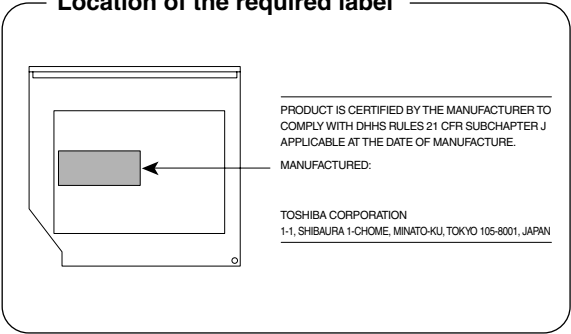
ADVARSEL
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED
ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR
DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR
STRÅLEN.

VARO !
NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET
ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO
SÄTEESEEN.

VARNING
SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

Location of the required label



4 Bluetooth について

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver. 1.1
	無線周波数帯	2.4GHz (2402～2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	最大通信速度	約720kbps (非対称型通信時) 約430kbps (対称型通信時)
	出力 ※1	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度 ※1	-70dBm
	通信距離	見通し10m ※2
電源電圧		3.3V
消費電流		最大200mA

※1 アンテナの効率はありません。

※2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™ 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

【ステッカー】

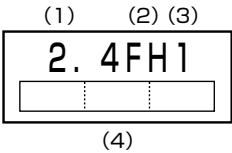
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーを PC 本体に貼付ください。

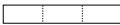
この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式が FH-SS 方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が 10m 以下であることを示す。
- (4)  : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝 PC ダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（祝日、12/31～1/3を除く）
ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認定表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYTF2SSBX

財団法人 電気通信端末機器審査協会

認証番号 D01-1058JP

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター

認証番号 01NYDA1071

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 ユーザに対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.1
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

お願い

本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。

ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.1 仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合

があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

Approval Number : 248104465A

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution

Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6PA3121BT

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

さくいん

記号

 キーを使ったショートカットキー ... 27

A

AC アダプタの仕様 20

Alt キー 22, 23

Arrow Mode LED 23, 24

B

BackSpace キー 23

BATTERY 182

Battery LED 21

BIOS セットアップ 175

Bluetooth Manager 100

Bluetooth Service Center 101

Bluetooth SIG 98

Bluetooth 機能を使う 97

Bluetooth 東芝ユーティリティ 99

Bluetooth について 228

BOOT PRIORITY 188

C

Caps Lock LED 22, 24

Caps Lock 英数キー 22

CD/DVD 再生ボタン 17

CD の取り扱い 54

COMMS インタフェース 208

COMMS コネクタ 18

CONFIGURATION 189

CRT ディスプレイを接続する 130

Ctrl キー 22, 23

D

DC IN LED 21

Del キー 23

Disk LED 21

DISPLAY 185

DMA 使用リソース 200

Drag'n Drop CD 71

DRIVES I/O 190

DVD-RW、DVD-R に編集した

映像を書き込む 88

DVD-Video を観る 76

DVDfunSTUDIO 85

DVD の取り扱い 54

E

Enter キー 23

Esc キー 22

F

FDD/CD-ROM LED 21

FLOPPY DISK I/O 191

Fn キー 22

Fn キーを使った特殊機能キー 25

I

i.LINK インタフェース 203

i.LINK コネクタ 18

i.LINK 対応機器の取り付け 133

i.LINK 対応機器の取りはずし 133

i.LINK 対応機器を接続する 132

i.LINK によるネットワーク接続 .. 133

I/O PORTS 189

I/O ポートマップ 200

IEEE1394 インタフェース 203

IEEE1394 コネクタ 18

IEEE1394 対応機器の取り付け

..... 133

IEEE1394 対応機器の取りはずし

..... 133

IEEE1394 対応機器を接続する ... 132

Ins キー	23
InterVideo WinDVD	76
IRQ 使用リソース	200

L

LAN インタフェース	206
LAN ケーブルの接続	94
LAN コネクタ	18
LAN コネクタに関するインジケータ	95
LAN へ接続する	94
LEGACY EMULATION	190

M

MEMORY	178
MotionDV STUDIO	85
MS-DOS の起動ディスクを作成する	47

N

Numeric Mode LED	23, 24
------------------------	--------

O

OTHERS	185
--------------	-----

P

PASSWORD	178
Pause キー	23
PC CARD	190
PCI BUS	189
PCI LAN	191
PC カードスロット	16
PC カードの取り付け	121
PC カードの取りはずし	121
PC カードを接続する	120
PERIPHERAL	184
Power LED	21

PrtSc キー	23
PRT インタフェース	207
PRT コネクタ	18
PS/2 インタフェース	209
PS/2 コネクタ	18
PS/2 対応機器	134

R

RGB インタフェース	204
RGB コネクタ	18
RS-232C 対応機器	134

S

SD Card LED	55
SDMI	55
SD メモリカード	55
SD メモリカードスロット	16
SD メモリカードのセット	56
SD メモリカードの取り扱い	58
SD メモリカードの取り出し	56
Shift キー	22, 23
Space キー	22

T

Tab キー	22
--------------	----

U

USB インタフェース	205
USB コネクタ	18
USB 対応機器の取り付け	123
USB 対応機器の取りはずし	123
USB 対応機器を接続する	123

W

Windows Media Player	64
Windows のネットワーク設定	95
Win キー	22

ア

アプリケーションキー	23
アプリケーションを削除する	165
アプリケーションを追加する	164
アプリケーションを使う前に	162
アロー状態	24
アンインストール	165

イ

インスタントセキュリティ機能	25
インストール	164
インターネットボタン	17

ウ

ウィンドウの色を変える	39
-------------------	----

エ

映像を編集する	85
液晶ディスプレイの取り扱い	40

オ

オーディオデジタル再生ボタン	17
オーディオプレイボタン	17
オートスクロール	34
オーバレイキー	23
大文字ロック状態	24
オリジナル音楽 CD を作る	71
音楽 CD を聴く	64
音楽ファイルを聴く	67

カ

海外でインターネットに接続する	114
外形寸法図	197
回線切換器	114
解像度を変更する	38

書き込み可能状態 (SD メモリカード)	57
書き込み可能状態 (フロッピーディスク)	46
書き込み禁止状態 (SD メモリカード)	57
書き込み禁止状態 (フロッピーディスク)	46
カタカナ／ひらがなキー	23
カテゴリ	94
壁紙を変える	37

キ

キーシフトインジケータ	24
キーフロッピーディスクの作成 ...	178
キーボード	16
キーボードの取り扱い	28
逆送りボタン	17
休止状態	157

ク

クイックフォーマット	47
クリック	29

サ

再生／一時停止ボタン	17
サウンド機能	42
先送りボタン	17

シ

システムインジケータ	16, 21
システム環境の変更	168
使用できる CD	50
使用できる DVD	51
使用できるフロッピーディスク	44

使用できるメディアと

対応するアプリケーション	53
省電力モード	152
ジョグホイール	16
新着メールチェック機能	107

ス

数字ロック状態	24
スクリーンセーバを使う	37
スタンバイ	156
スピーカ	16

セ

静電気について	139
製品仕様	194
セキュリティロック	62
セキュリティロック・スロット	18

ソ

増設メモリスロット	19
増設メモリの取り付け	139
増設メモリの取りはずし	141

タ

タッチパッド	16
タッピング	29
ダブルクリック	29

ツ

通風孔	16
-----------	----

テ

停止ボタン	17
ディスプレイ	16, 35
ディスプレイ開閉ラッチ	16
デジカメ Walker	82

デジタルカメラの写真を編集 / 整理する

.....	82
デスクトップのテーマを変える	36
テレビに表示する	126
テレビを接続する	126
電源コードの仕様	20
電源コードの取り扱い	19
電源コネクタ	18
電源スイッチ	16

ト

東芝 HW セットアップ	169
東芝 PC 診断ツール	196
東芝コンソール	61
東芝コンソールボタン	17
東芝コントロール	59
東芝省電力ユーティリティ	151
特殊機能キー	27
時計用バッテリー	146
ドライブ	18, 50
ドラッグアンドドロップ	29

ナ

内蔵モデム	114
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	115

ハ

ハードウェアリソース	200
ハードディスクドライブ	41
パスワードの削除	171, 180
パスワードの登録	170
パスワードの変更	181
パスワードを忘れてしまった場合	181
パソコン本体の取り扱い	19

バッテリー	144
バッテリー駆動での使用時間	148
バッテリー充電完了までの時間	147
バッテリー充電量	145
バッテリーの充電方法	147
バッテリーの充電保持時間	148
バッテリーパック	19
バッテリーパックの交換方法	149
バッテリーを長持ちさせるには	148
パネルスイッチ機能	159
半／全キー	22

ヒ

左ボタン	16
ビデオケーブルの取り付け	126
ビデオケーブルの取りはずし	129
ビデオ出力端子	18
ビデオモード	198
表示可能色数	35

フ

ファンクションキー	22
フォーマット (SD メモリカード)	58
フォーマット (フロッピーディスク)	46
プラグアンドプレイ	119
プリンターケーブルの取り付け	124
プリンターケーブルの取りはずし ...	125
プリンタの設定	124
プリンタを接続する	124
フロッピーディスクドライブ	18, 44
フロッピーディスクドライブの手入れ	49

フロッピーディスクのセット	45
フロッピーディスクの取り扱い	49
フロッピーディスクの取り出し	45
分岐アダプタ	114

ヘ

ヘッドホン	136
ヘッドホン出力端子	16, 136
変換キー	23

ホ

ボリウムダイヤル	16, 42
本製品の仕様	194

マ

マイク入力端子	16, 135
マイクロホン	135
マスタ音量	42

ミ

右ボタン	16
------------	----

ム

無変換キー	22
-------------	----

メ

メール着信 LED	107
メールボタン	17
メモリマップ	200
メモリ容量の確認	142
メモリを増設する	138

モ

モジュージャック	18
モデムインタフェース	205

ヤ

矢印キー	23
------------	----

ラ

ライトプロテクトタブ （SD メモリカード）	57
ライトプロテクトタブ （フロッピーディスク）	46

ロ

録音レベルの調整	43
----------------	----

ワ

ワイヤレスコミュニケーションスイッチ	18
ワンタッチボタン	59

